YAMAHA

ユーザーガイド

AVレシーバー

RX500A

JA

目次

製品とマニュアルについて 8

本製品の特長 8
本製品のマニュアルについて 9
本製品のマニュアルについて 9
ユーザーガイドの記載内容に関するお知らせ 10

各部の名称と機能 11

フロントパネルの各部の名称と機能 11
リアパネルの各部の名称と機能 13
フロントディスプレイの各部の名称と機能 15
リモコンの各部の名称と機能 17

ご使用の準備 20

準備の流れ 20
付属品と必要な市販品を確認する 21
リモコンを準備する 23
本製品を配置する 24
スピーカーを配置する 25
スピーカーの名称と機能 25
チャンネル構成早見表 27
おすすめのスピーカー配置(基本編) 29
その他のスピーカー配置(基本編) 34
ゾーン接続する(応用編) 38
バイアンプ接続する(応用編) 40
スピーカーを接続する 42
スピーカーとスピーカーケーブルの準備 42
スピーカーケーブルを接続する 43
テレビを接続する 46
ネットワーク接続の準備をする 49

本製品の電源を入れる 51
電源に接続する 51
電源を入れる(メインゾーン) 52
セットアップガイドを使って初期設定をする 53
専用アプリでネットワーク接続する 59
AV機器を接続する 60
AV機器をHDMI接続する 60
AV機器をHDMI以外で接続する 61
ラジオのアンテナを接続する 62
FMアンテナを接続する 62

再生 63

基本操作 63
再生の基本操作 63
音声/映像信号情報を確認する 64
テレビの音声を聴く 65
ラジオを聴く 66
ラジオを聴く 66
ラジオ局を登録・登録解除する 67
Bluetooth®機器の音声を再生する 69
USB機器の曲を再生する 71
AirPlayで音楽を聴く 74
インターネットラジオを聴く 75
ストリーミングサービスを聴く 76

音を楽しむ 77

お好みのサウンドを選ぶ(サウンドモード) 77
オリジナルの音声を楽しむ(ストレートデコード) 79
より高品位な再生を楽しむ(ピュアダイレクト) 80
映像コンテンツに適した音声を楽しむ(MOVIE) 81
音楽コンテンツに適した音声を楽しむ(MUSIC) 82
音場効果をかけずにステレオ再生を楽しむ(2 CH STEREO) 83

全スピーカーからステレオ再生を楽しむ(ALL CH STEREO) 84
低音を楽しむ(エクストラベース) 85
Dolby Atmos®やDTS:X®を楽しむ 86

便利な機能 87

スリープタイマー機能 87
シーン機能 88
シーン機能について 88
シーンを呼び出す・登録する 89
複数の部屋で音楽を楽しむ(ゾーン機能) 93
ゾーン機能について 93
ゾーンスピーカーを接続する 94
ゾーンを操作する 96

設定 99

メニューについて 99
再生ソースに合わせて設定する(オプションメニュー) 100
オプションメニューの基本操作 100
オプションメニュー一覧 102
音声のトーンを調整する 103
音量差を調整する 104
リップシンク補正を有効/無効にする 105
音声入力・映像入力端子を選択する 106
FMラジオの受信方法(ステレオ/モノラル)を設定する 107
ラジオ局を登録・登録解除する 108
シャッフル/リピート再生を設定する 109
インターネットラジオ・Podcastsのラジオ局を自動再生する 110
Bluetooth®機器を本製品に登録する 111
Bluetooth®入力を自動選択する 112

機能設定をする(設定メニュー) 113
設定メニューの基本操作 113
設定メニュー一覧 115
初期設定をする 119
スピーカーの設定をする 120
HDMIの設定をする 125
音声の設定をする 129
シーンの設定をする 133
詳細機能の設定をする(ファンクション設定) 134
ネットワークの設定をする 138
Bluetooth®の設定をする 141
メニュー言語設定をする 142
設定を初期化する 143

ファームウェアの更新 144

ファームウェアの更新について 144
ファームウェアを更新する 145
ネットワーク経由でファームウェアを更新する 145
USBメモリーを使ってファームウェアを更新する 146

困ったときは 148

最初にご確認ください 148
電源/システム/リモコンのトラブル 149
電源が入らない 149
テレビと連動して電源が入らない 150
電源が切れない 151
電源がすぐに切れてしまう 152
電源が自動的にスタンバイに切り替わる 153
本製品が操作を受け付けない 154
リモコンで本製品を操作できない 155
INPUTキーを押しても目的の入力を選択できない 156

音声のトラブル 157
音が出ない 157
音量が上がらない 158
特定のスピーカーから音が出ない 159
サブウーファーから音が出ない 160
HDMIで接続したAV機器の音が出ない 161
HDMIコントロール使用時に、AV機器の音声が本製品から出ない 162
HDMIコントロール使用時に、テレビの音声が本製品から出ない 163
入力を「TV」にしたとき、他の機器の音声が聴こえる 164
マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない 165
雑音が入る 166
音がひずむ 167
映像のトラブル 168
映像が出ない 168
HDMIで接続したAV機器の映像が出ない 169
設定メニューやオプションメニューがテレビに表示されない 170
FMラジオのトラブル 171
FMラジオの受信感度が悪い、雑音が入る 171
FMラジオの自動選局ができない 172
PRESETSキーを押してもラジオ局を選べない 173
ネットワークのトラブル 174
ネットワーク機能を使用できない 174
無線LANルーター(アクセスポイント)経由でインターネットに接続できない 175
無線ネットワークが見つからない 176
インターネットラジオを再生できない 177
AirPlay使用時に、iPhoneで本製品が検出されない 178
AirPlayで音楽を再生できない 179
ネットワーク経由でファームウェアを更新できない 180
USBのトラブル 181
USB機器が認識されない 181
USB機器のフォルダーやファイルが表示されない 182
USB機器のファイルを連続して再生できない 183
Bluetooth®接続のトラブル 184
Bluetooth®機器と接続できない 184
Bluetooth®接続時に音が出ない、音が途切れる 185

専用アプリのトラブル 186
専用アプリで本製品を検出できない 186
フロントディスプレイのエラーメッセージ 187

仕様 188

主な仕様 188
対応している機器とフォーマット 195
対応しているBluetooth機器 195
対応しているUSB機器 196
対応しているファイルフォーマット 197

付録 198

ネットワークへ無線接続する 198
ネットワークへの無線接続方法を選ぶ 198
iPhoneを使って無線接続する 199
アクセスポイントの一覧から無線接続する 200
手動で無線接続する 201
ハイトスピーカーの配置について 202
ハイトスピーカーの配置 202
ハイトスピーカーをフロントハイトに設置する 203
ハイトスピーカーをトップに設置する 204
ハイトスピーカーにドルビーイネーブルドスピーカーを使用する 205
サブウーファーの出力条件について 206
専用アプリについて 207
サポート窓口 208
商標 209
サードパーティー製ソフトウェアプログラムについて 212

製品とマニュアルについて

本製品の特長

7chで8K、ネットワークコンテンツにも対応し、多彩な入力ソースをDolby Atmos/DTS:Xなどで楽しめる、本格マルチチャンネルAVアンプです。リーズナブルに7chの本格サラウンドをお楽しみいただけます。

デザインはモダンかつシンプルで、さまざまなインテリアにもマッチします。

本製品のマニュアルについて

本製品のマニュアルについて

本製品のマニュアルとして、次のガイドが同梱またはウェブ公開されています。

セーフティーガイド

本製品を安全にご使用いただくために必要な情報も掲載されています。ご使用前に必ずお読みください。

クイックガイド

本製品をご購入後、箱を開けてからテレビなどの音声をお楽しみいただくまでの手順を説明しています。

ユーザーガイド(本ガイド)

クイックガイドに記載のない内容も含め、すべての機能や使用手順を説明しています。

ユーザーガイドの記載内容に関するお知らせ

- ユーザーガイド(本ガイド)の説明では注意事項などを次のように分類しています。
  -  **警告**

    「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
  -  **注意**

    「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
  - **ご注意**

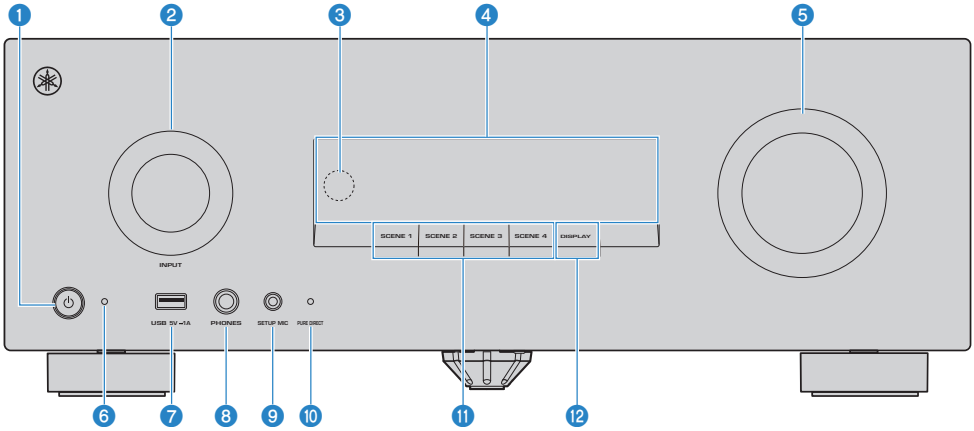
    製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容です。
  - **お知らせ**

    使用時の注意点や機能の制約、知っておくと便利な補足情報です。
- 掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- 記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- 本ガイドでは、各種スマートフォンやタブレット機器を総称して「スマートフォン」と表記しています。必要な場合は、説明文中で機器の種類を特定しています。
- 本ガイドでは、iPhone、iPadを総称して「iPhone」と表記します。説明文に限定する記載がない場合、「iPhone」という表記はiPhoneおよびiPadを意味します。
- 本ガイドでは、主にリモコンでの操作を説明しています。本製品での操作が必要な場合は、その都度説明しています。
- 本ガイドでは日本国内仕様の製品について説明しています。

各部の名称と機能

フロントパネルの各部の名称と機能

フロントパネルの各部の名称と機能について説明します。



1 ⏻(電源)キー

メインゾーンの電源を入/切(スタンバイ)します(52ページ)。

2 INPUT(インプット)

入力選択をします。

3 リモコン信号受光部

リモコンの信号(赤外線)を受信します(17ページ)。

4 フロントディスプレイ

各種情報が表示されます(15ページ)。

5 ボリューム

音量を調節します。

6 スタンバイ表示

本製品がスタンバイ時、次のいずれかの状態で点灯します。

- HDMIコントロールが有効(125ページ)
- HDMIパススルーが有効(125ページ)
- ネットワークスタンバイが有効(138ページ)
- Bluetoothスタンバイが有効(141ページ)

❼ USB端子

USB機器を接続します(71ページ)。

❽ PHONES(フォーンズ)端子

ヘッドホンを接続します。

❾ SETUP MIC(セットアップマイク)端子

初期設定でスピーカー設定(ルームコレクション)を実行する際に、付属のセットアップマイクを接続します(53ページ)。

❿ PURE DIRECT(ピュアダイレクト)表示

ピュアダイレクトが有効なときに点灯します(80ページ)。

⓫ SCENE(シーン)キー

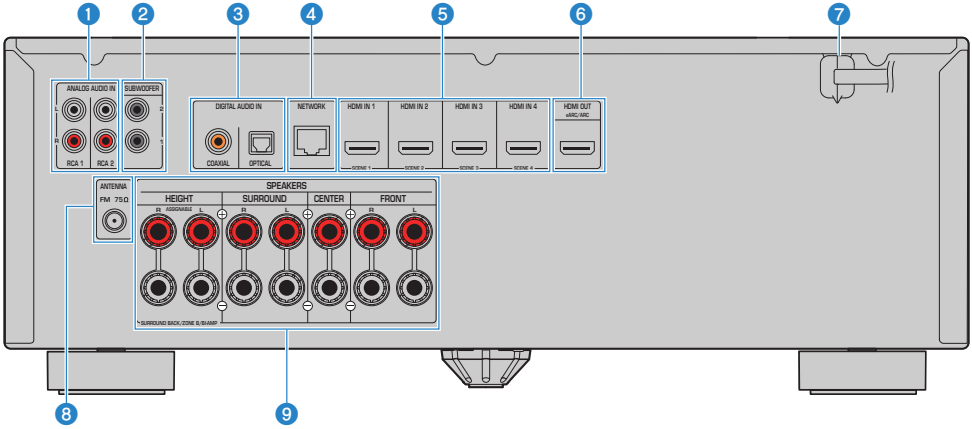
シーンを切り替えます。シーン機能は複数の項目をワンタッチで切り替えることができます(88ページ)。本製品がスタンバイ時は、電源も入ります。

⓬ DISPLAY(ディスプレイ)キー

フロントディスプレイに表示される本製品の情報を切り替えます(15ページ)。

リアパネルの各部の名称と機能

リアパネルの各部の名称と機能について説明します。



❶ ANALOG AUDIO IN端子

アナログ音声出力を持つAV機器を接続し、音声を入力します(61ページ)。

❷ SUBWOOFER(サブウーファー)端子

アンプ内蔵のサブウーファーを接続します(43ページ)。

❸ DIGITAL AUDIO IN端子

デジタル音声出力を持つAV機器を接続し、音声を入力します(61ページ)。

❹ NETWORK(ネットワーク)端子

本製品をネットワークに有線接続する場合に、ネットワークケーブルを接続します(49ページ)。

❺ HDMI IN 1〜4端子

HDMI出力対応のAV機器を接続し、映像/音声を入力します(60ページ)。

❻ HDMI OUT eARC/ARC端子

HDMI入力対応のテレビを接続し、映像/音声を出力します(46ページ)。eARC/ARC使用時は、テレビの音声が入力されます。

❼ 電源コード

電源コードのプラグをコンセントに接続します(51ページ)。

❽ ANTENNA(アンテナ)端子

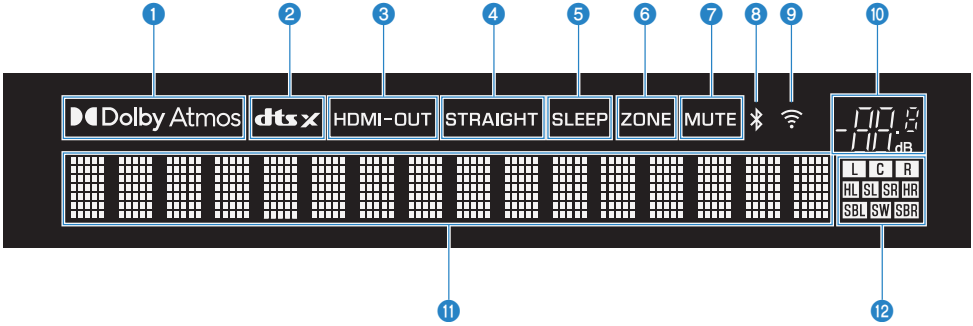
ラジオのアンテナを接続します(62ページ)。

❾ **SPEAKERS(スピーカー)端子**

スピーカーを接続します(25ページ)。

フロントディスプレイの各部の名称と機能

フロントディスプレイの各部の名称と機能について説明します。



❶ Dolby

Dolby信号受信時に点灯します。

Dolby Atmos

Dolby Atmos信号受信時に点灯します(86ページ)。

❷ dts

DTS信号受信時に点灯します。

dts:X

DTS:X信号受信時に点灯します(86ページ)。

❸ **HDMI**

HDMI INまたはHDMI OUT eARC/ARC端子からの音声入力または出力があると点灯します(46ページ、60ページ)。

HDMI-OUT

HDMI OUT eARC/ARC端子からの音声出力があると点灯します(46ページ)。

❹ **STRAIGHT(ストレート)**

サウンドモードで「STRAIGHT」選択時に点灯します(79ページ)。

❺ **SLEEP(スリープ)**

スリープタイマー設定時に点灯します(87ページ)。

❻ **ZONE(ゾーン)**

ゾーンBの電源が入っているときに点灯します(96ページ)。

❼ **MUTE(ミュート)**

消音時に点灯します。

❽ Bluetooth

Bluetooth機器が接続されているときに点灯します(69ページ)。

❾ 無線LAN

ネットワークへ無線接続している時に点灯します(198ページ)。

また、信号の受信強度も表示されます。

WAC設定時は点滅します。

❿ 音量表示

音量を表示します。

⓫ 情報表示

選択中の入力や音場プログラムなどの情報を表示します。フロントパネルまたはリモコンのDISPLAYキーで、表示する情報を切り替えられます(11ページ)。

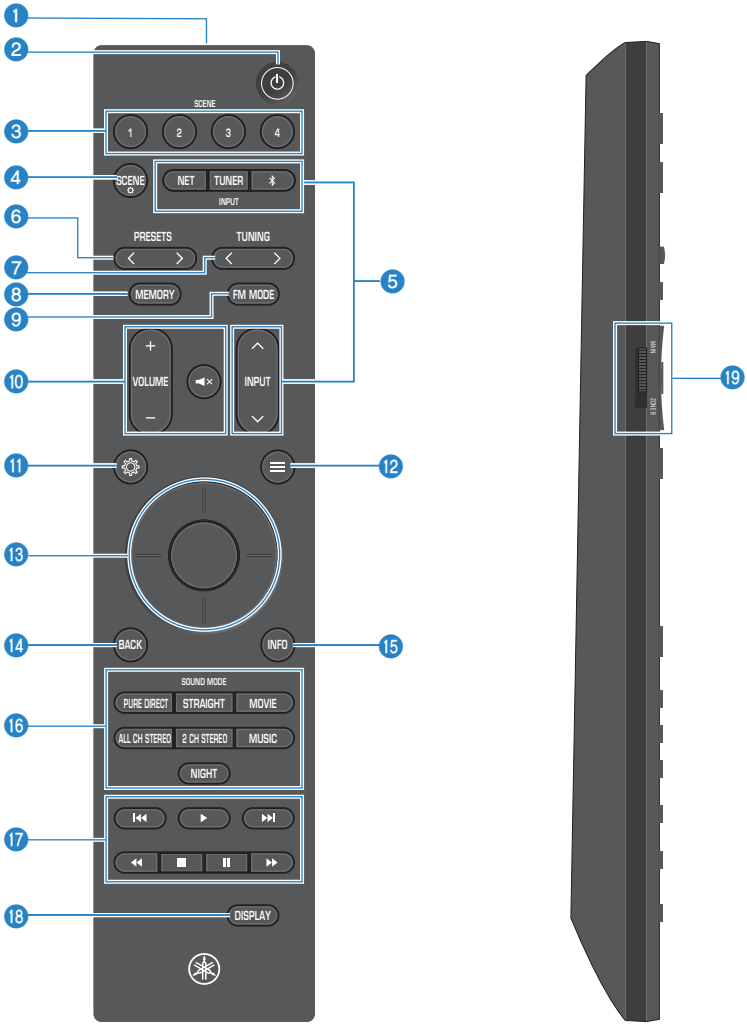
⓬ スピーカー表示

スピーカー構成に応じて、アイコンが点灯します。

- **L**：フロントスピーカー(左)
- **R**：フロントスピーカー(右)
- **C**：センタースピーカー
- **SL**：サラウンドスピーカー(左)
- **SR**：サラウンドスピーカー(右)
- **HL**：ハイトスピーカー(左)
- **HR**：ハイトスピーカー(右)
- **SBL**：サラウンドバックスピーカー(左)
- **SBR**：サラウンドバックスピーカー(右)
- **SW**：サブウーファー

リモコンの各部の名称と機能

リモコンの各部の名称と機能について説明します。



❶ リモコン信号送信部

リモコンの信号(赤外線)を送信します。

❷ ⏻(電源)キー

ゾーンスイッチで選択したゾーンの電源を入/切します(96ページ)。

❸ **SCENE(シーン)キー**

シーン機能で設定した複数の項目をワンタッチで切り替えます(88ページ)。本製品がスタンバイ時は、電源も入ります。

❹ **SCENE⚙キー**

テレビ画面に「シーン設定」画面を表示し、シーン機能で呼び出す項目を設定します(89ページ)。

❺ **INPUT(インプット)キー**

再生する入力を選びます。

❻ **PRESETS(プリセット)キー**

プリセットに登録したラジオ局を選びます(67ページ)。

❼ **TUNING(チューニング)キー**

ラジオの周波数を切り替えます(66ページ)。

約1秒押し続けると、自動で選局できます。

❽ **MEMORY(メモリー)キー**

プリセットのラジオ局を登録します(67ページ)。

❾ **FM MODEキー**

FMラジオの受信方法(ステレオ/モノラル)を選択します。

❿ **VOLUME(ボリューム)キー**

音量を調節します。

🔇(消音)キー

消音します。

⓫ **⚙(設定メニュー)キー**

テレビ画面に設定メニューを表示します(113ページ)。

⓬ **☰(オプションメニュー)キー**

テレビ画面にオプションメニューを表示します(100ページ)。

⓭ **ENTER(エンター)/カーソルキー**

テレビ画面に表示されるメニュー操作を行います。

⓮ **BACK(バック)キー**

テレビ画面に表示されるメニュー操作で、前画面に戻る場合などに使います。

⓯ **INFO(インフォメーション)キー**

テレビ画面上の信号情報の表示/非表示を切り替えます(64ページ)。

⑯ **サウンドモードキー**

サウンドモードを切り替えます(77ページ)。

⑰ **外部機器操作キー**

HDMIコントロールに対応しているAV機器や、Bluetooth機器の再生操作を行います。

⑱ **DISPLAY(ディスプレイ)キー**

フロントディスプレイに表示される本製品の情報を切り替えます。

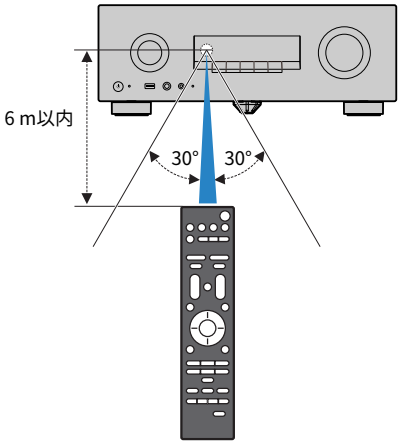
⑲ **ゾーンスイッチ**

リモコンで操作するゾーンを切り替えます(93ページ)。

■ リモコンの操作範囲

リモコンの操作範囲は、次のイラストのとおりです。

リモコンを本体のリモコン信号受光部に向けて操作してください。



ご使用の準備

準備の流れ

本製品を使用するまでの基本的な準備手順は、次のとおりです。

1 **付属品と必要な市販品を確認する。**
「付属品と必要な市販品を確認する」(21ページ)

2 **リモコンを準備する。**
「リモコンを準備する」(23ページ)

3 **本製品を配置する。**
「本製品を配置する」(24ページ)

4 **スピーカーを配置する。**
「スピーカーを配置する」(25ページ)

5 **スピーカーを接続する。**
「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)
「スピーカーケーブルを接続する」(43ページ)

6 **テレビを接続する。**
「テレビを接続する」(46ページ)

7 **ネットワーク接続の準備をする。**
「ネットワーク接続の準備をする」(49ページ)

8 **本製品の電源を入れる。**
「電源に接続する」(51ページ)
「電源を入れる(メインゾーン)」(52ページ)

9 **初期設定をする。**
「セットアップガイドを使って初期設定をする」(53ページ)

10 **専用アプリでネットワーク接続する。**
「専用アプリでネットワーク接続する」(59ページ)

11 **AV機器を接続する。**
「AV機器をHDMI接続する」(60ページ)
「AV機器をHDMI以外で接続する」(61ページ)

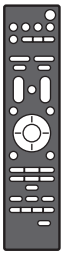
12 **ラジオのアンテナを接続する。**
「ラジオのアンテナを接続する」(62ページ)

付属品と必要な市販品を確認する

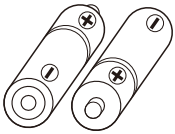
■ 付属品を確認する

本製品の付属品は次のとおりです。付属品がすべて揃っていることを確認してください。

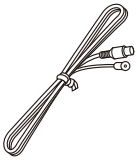
- リモコン(×1)



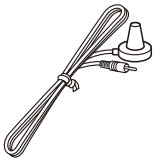
- 単4乾電池(AAA、R03、UM-4)(×2)



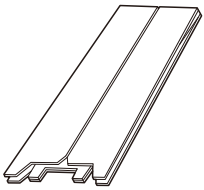
- FMアンテナ(×1)



- セットアップマイク(×1)



・簡易マイクスタンド(×1)



・クイックガイド(×1)
・セーフティーガイド(×1)

■ 市販品を用意する

あらかじめ必要なものを手元に用意することで、セットアップがスムーズに進みます。

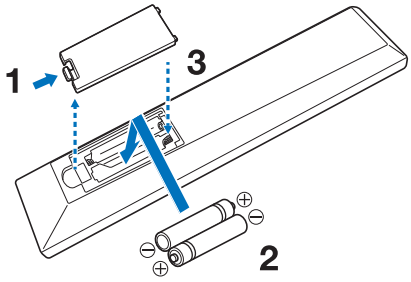
・テレビ
・HDMIケーブル(接続する機器の台数分)
・スピーカー
・スピーカーケーブル(スピーカーの本数分)
・モノラルピンケーブル(サブウーファー接続用)
・バナナプラグ(スピーカーケーブルの接続に使用する場合)
・Wi-Fiルーター
・ネットワークケーブル(ネットワークに有線接続する場合)

次の手順

・「リモコンを準備する」(23ページ)

リモコンを準備する

付属の乾電池を、正しい向き(＋と－)でリモコンに入れてください。



次の手順

- 「本製品を配置する」(24ページ)

本製品を配置する

配線や操作がしやすい場所に本製品を仮置きしてください。

本製品の接続や設定がすべて終わったら、ラックなどお好みの場所に設置してください。

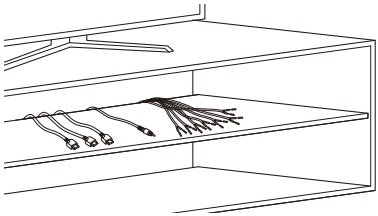
参考例



お知らせ

- 周囲に十分なスペースを確保してください。
- 本製品をラックに入れる場合は、本製品に接続するケーブルをあらかじめラック背面に通しておくと便利です。

参考例



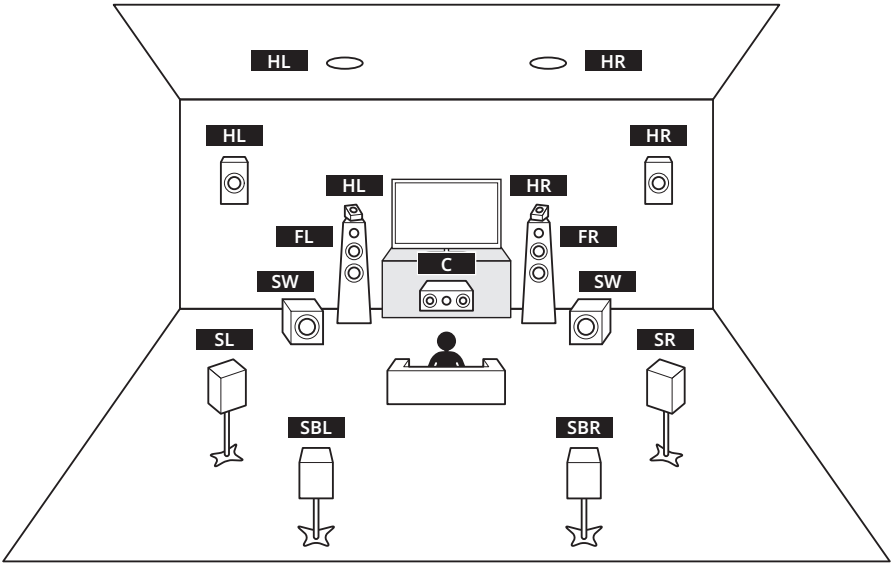
次の手順

- 「スピーカーを配置する」(25ページ)

スピーカーを配置する

スピーカーの名称と機能

本製品に接続する各スピーカーの名称と機能について説明します。



スピーカーの種類	略称	機能
フロント	FL / FR	フロントチャンネルの音声(ステレオ音声)を出力。
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ/ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力。
サラウンド	SL / SR	サラウンドチャンネルの音声を出力。
ハイト	HL / HR	Dolby AtmosやDTS:Xコンテンツの上方チャンネルの音声を出力。 配置方法は、トップ(天井)、フロントハイト(前方の壁)、ドルビーイネーブルドスピーカー(フロントスピーカーの上部)の3種類あり、視聴環境に合わせて選んでください。
サラウンドバック	SBL / SBR	サラウンドバックチャンネルの音声を出力。
サブウーファー	SW	LFE(低域効果音)チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力。

次の手順

- 「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)

関連リンク

「ハイトスピーカーの配置について」(202ページ)

チャンネル構成早見表

用途や視聴環境に合わせたチャンネル構成の例です。

チャンネル数	特長	必要なスピーカー	使用するスピーカー端子	ページ
5.1.2(ハイトスピーカーの配置がフロントハイトの場合)	Dolby Atmos入門。 前方の高さ方向の広がりを強調。	床置き5 サブウーファー1 ハイト2	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER、HEIGHT L/R	29
5.1.2(ハイトスピーカーの配置がトップの場合)	Dolby Atmos入門。 頭上からの音の広がりを強調。	床置き5 サブウーファー1 ハイト2	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER、HEIGHT L/R	
7.1	床置きのチャンネル優先。 後方の包囲感を強化。	床置き7 サブウーファー1	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER、HEIGHT(SURROUND BACK) L/R	
5.1	基本サラウンドの標準。	床置き5 サブウーファー1	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER	34
3.1.2	省スペース。 セリフ＋高さを優先。	床置き3 サブウーファー1 ハイト2	FRONT L/R、CENTER、SUBWOOFER、HEIGHT L/R (SURROUNDは未使用)	
ゾーン(メイン＋ZoneB)	別室・別スピーカーへ同時出力。	メイン：最大5.1 chまでを推奨 ZoneB：2 chを確保	メイン：5.1〜3.1 ch (FRONT/CENTER/SURROUND+SUBWOOFER) ZoneB：2 ch (HEIGHT L/R)	38
バイアンプ接続(フロントL/R)	フロントの駆動力・制動を強化。	床置き2	FRONT L/R、HEIGHT L/R(BI-AMP端子に割り当て)	40

次の手順

- 「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)

おすすめのスピーカー配置(基本編)

次の配置が本製品の性能をフルに活用できる理想的なスピーカー配置です。

5.1.2チャンネル、7.1チャンネルの場合の配置をそれぞれ紹介します。

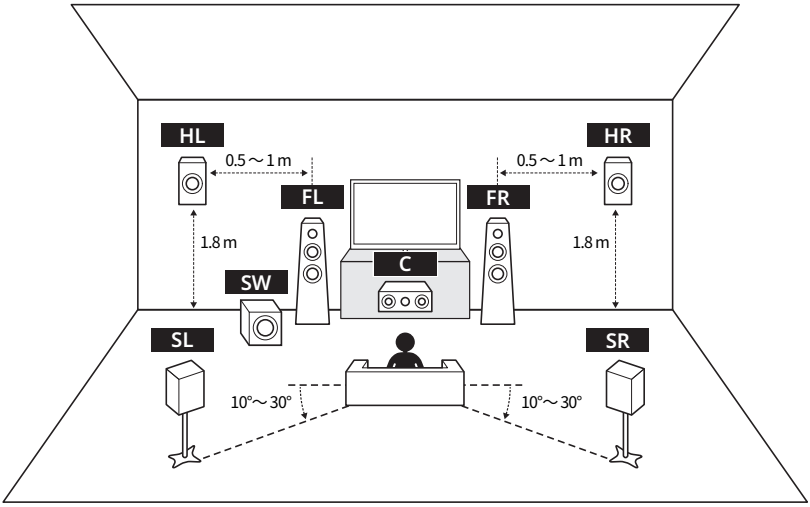
■ 5.1.2チャンネル

自然で立体的な視聴空間であらゆるコンテンツをお楽しみいただけます。Dolby AtmosやDTS:Xにもおすすめです。

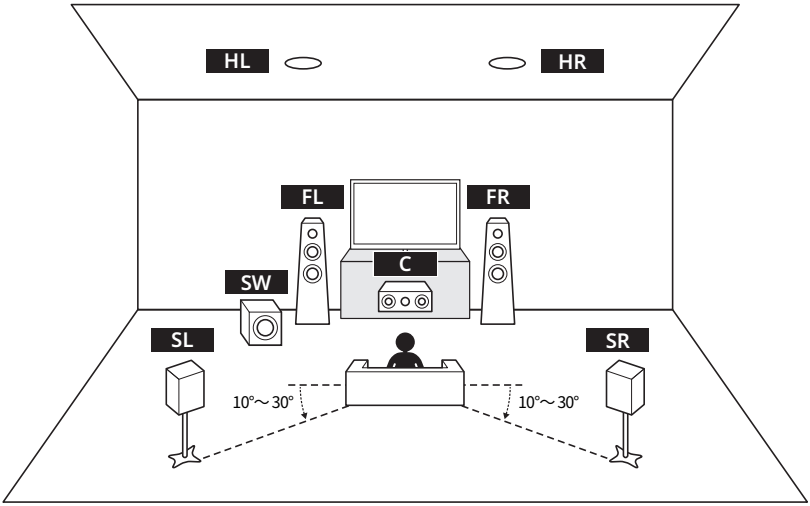
ハイトスピーカーの配置方法は、トップ(天井)、フロントハイト(前方の壁)、ドルビーイネーブルドスピーカー(フロントスピーカーの上部)の3種類あります。

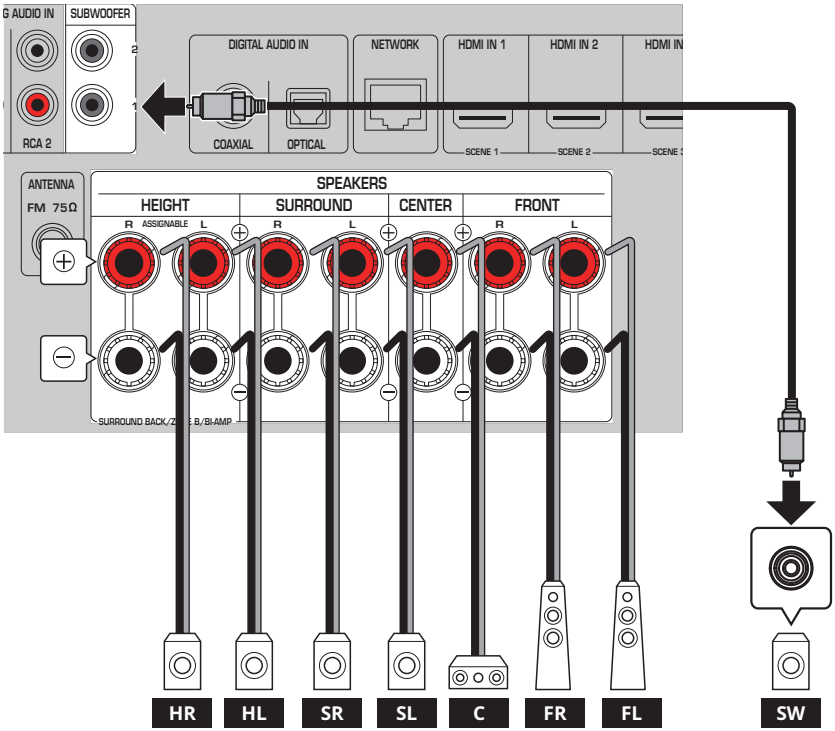
ハイトスピーカーを前面の壁に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをハイトスピーカーとして使用する場合は、設定の変更が必要です。

ハイトスピーカーの配置がフロントハイトの場合



ハイトスピーカーの配置がトップの場合





お知らせ

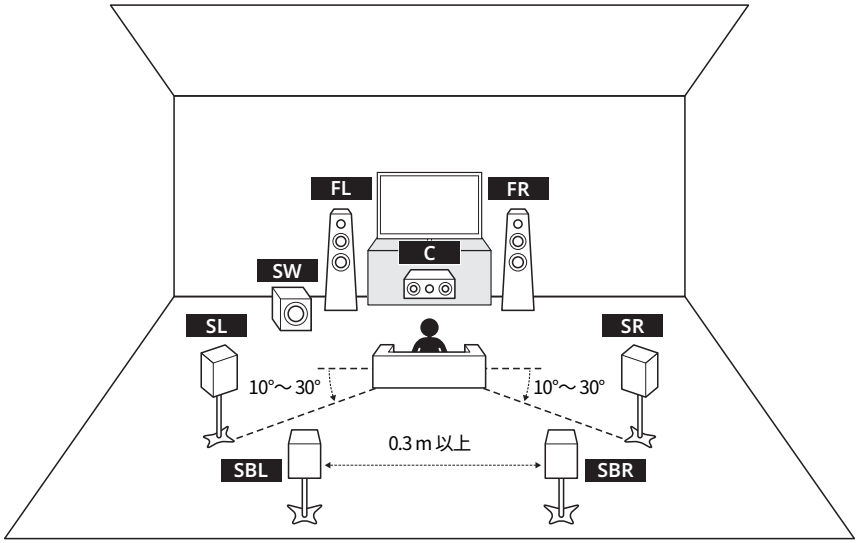
- サブウーファー(アンプ内蔵)を2台まで接続できます。各サブウーファーからは同じ音声が出力されます。
- サブウーファーを1台のみ接続する場合は、左右どちらに設置してもかまいません。
- 次の接続は同時に使用できません。
  - ハイトスピーカー
  - サラウンドバックスピーカー
  - ゾーンBスピーカー
  - バイアンプ接続

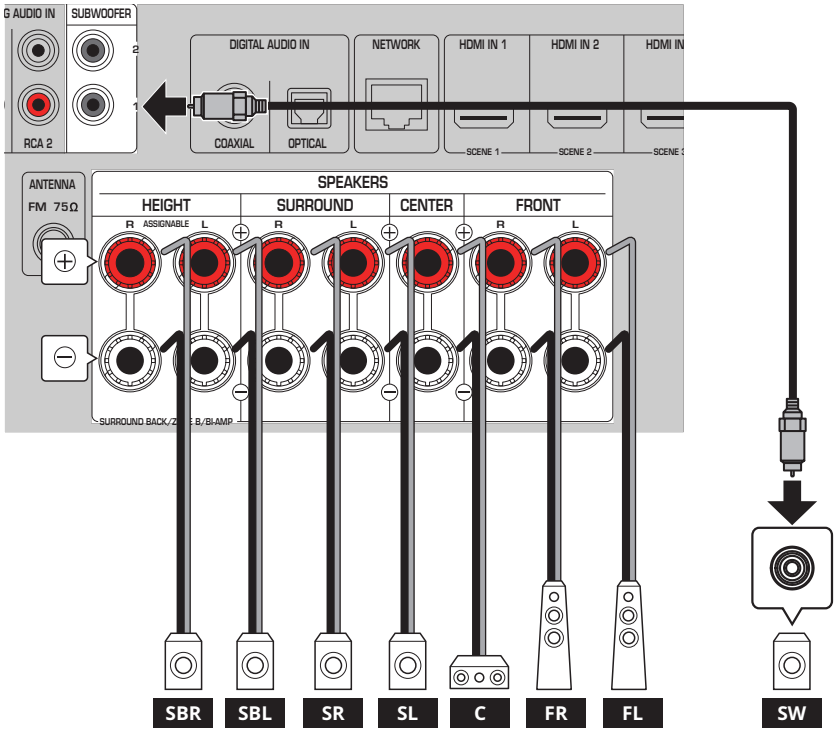
関連リンク

- 「スピーカーの設定をする」(120ページ)
- 「ハイトスピーカーの配置について」(202ページ)

■ 7.1チャンネル

サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。
サラウンドバックスピーカーを使用する場合は、設定の変更が必要です。





お知らせ

- サブウーファー(アンプ内蔵)を2台まで接続できます。各サブウーファーからは同じ音声が出力されます。
- サブウーファーを1台のみ接続する場合は、左右どちらに設置してもかまいません。

関連リンク

「スピーカーの設定をする」(120ページ)

次の手順

- 「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)

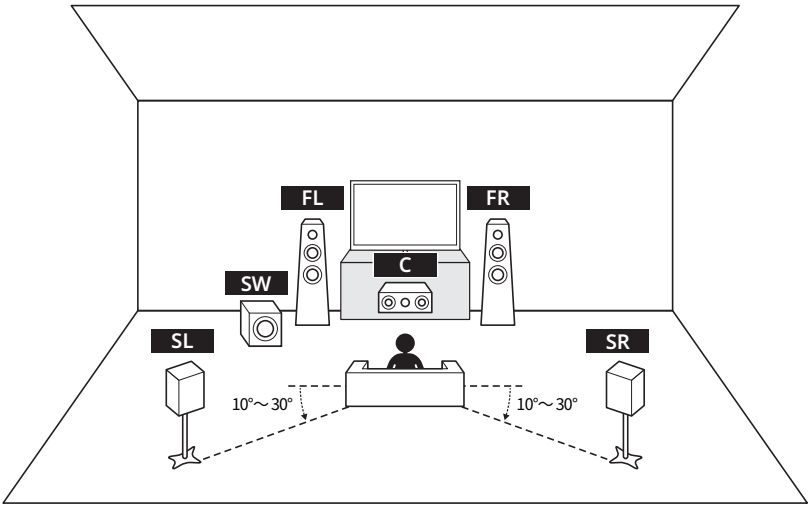
その他のスピーカー配置(基本編)

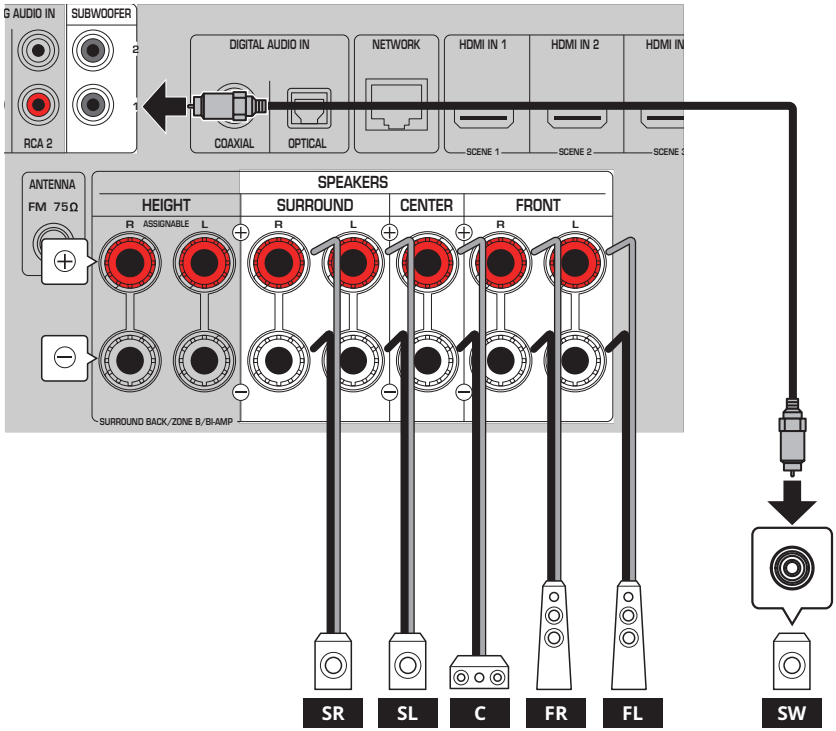
お知らせ

- サブウーファー(アンプ内蔵)を2台まで接続できます。各サブウーファーからは同じ音声が出力されます。
- サブウーファーを1台のみ接続する場合は、左右どちらに設置してもかまいません。

■ 5.1チャンネル

サラウンド再生を楽しむ基本的な配置です。

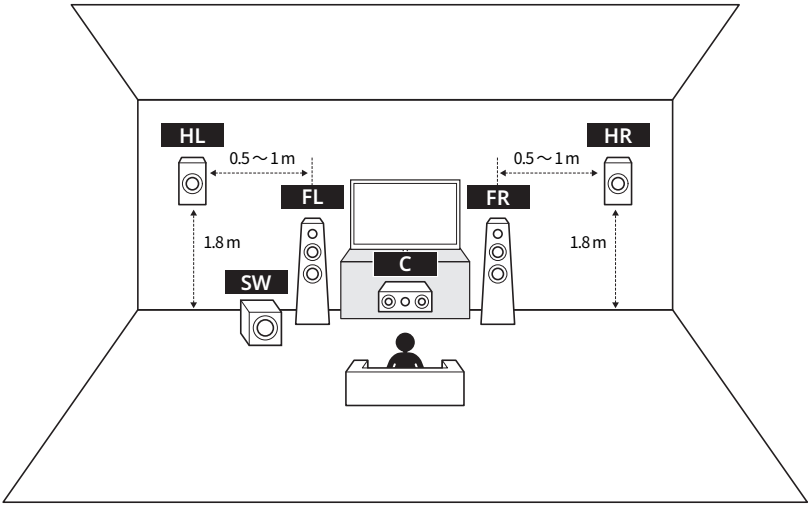


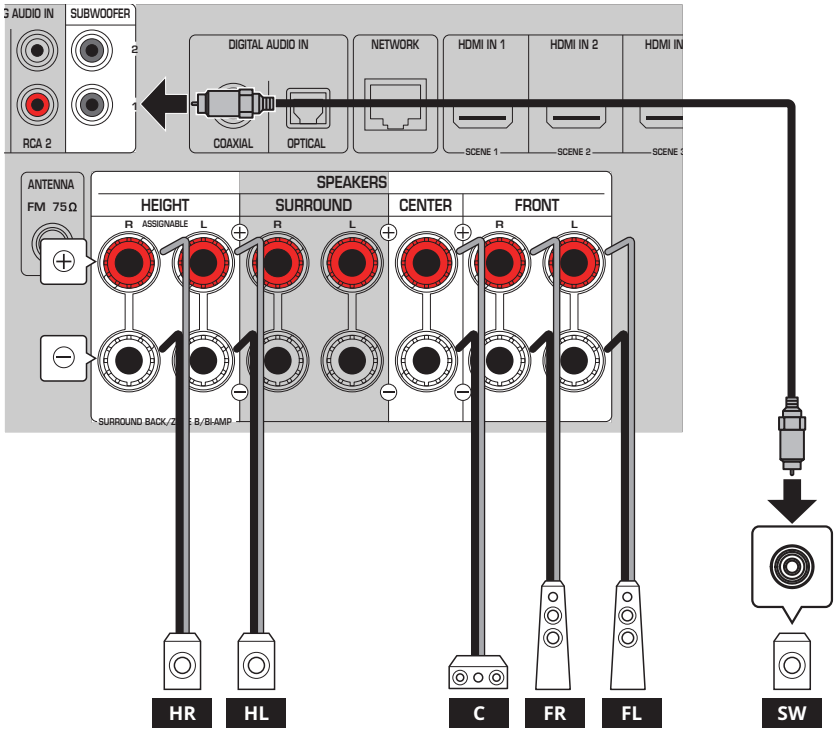

G AUDIO IN
SUBWOOFER
2
1
RCA 2
DIGITAL AUDIO IN
COAXIAL
OPTICAL
NETWORK
HDMI IN 1
HDMI IN 2
HDMI IN
SCENE 1
SCENE 2
ANTENNA
FM 75Ω
SPEAKERS
HEIGHT
SURROUND
CENTER
FRONT
R
ASSIGNABLE
L
SURROUND BACK/ZONE B/BI-AMP
SR
SL
C
FR
FL
SW

■ 3.1.2チャンネル

部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。このスピーカーシステムでも、Dolby AtmosやDTS:Xをお楽しみいただけます。

ハイトスピーカーを前面の壁に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをハイトスピーカーとして使用する場合は、設定の変更が必要です。





次の手順

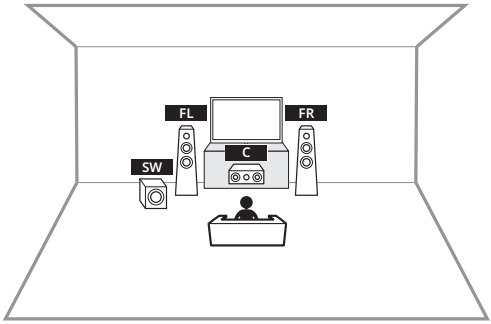
- 「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)

関連リンク

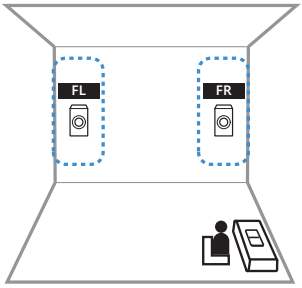
「スピーカーの設定をする」(120ページ)

ゾーン接続する(応用編)

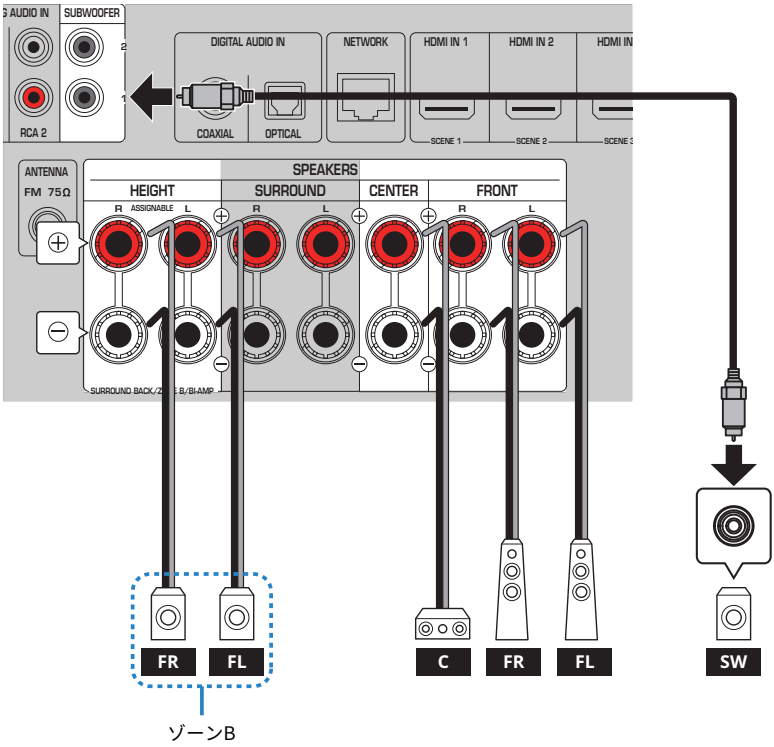
ゾーン機能を使えば、本製品を設置した部屋と別の部屋で再生が行えます。
下の図はメインゾーン3.1chとゾーンBを使用した例です。
ゾーンスピーカーを使用するには、設定の変更が必要です。



メインゾーン



ゾーンB



お知らせ

- サブウーファー(アンプ内蔵)を2台まで接続できます。各サブウーファーからは同じ音声が出力されます。
- サブウーファーを1台のみ接続する場合は、左右どちらに設置してもかまいません。
- 次の接続は同時に使用できません。
  - ・ハイトスピーカー
  - ・サラウンドバックスピーカー
  - ・ゾーンBスピーカー
  - ・バイアンプ接続

次の手順

- 「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)

関連リンク

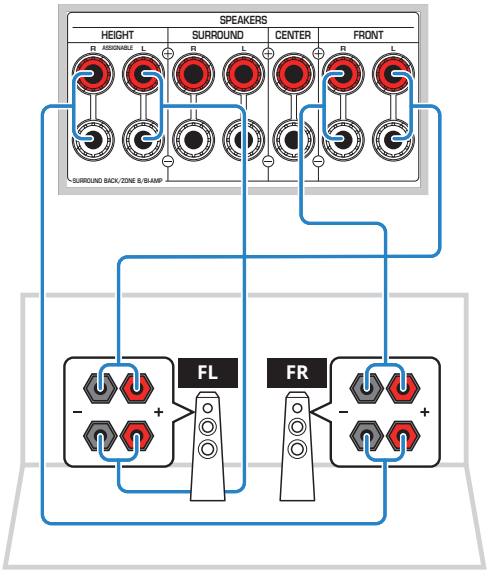
- 「スピーカーの設定をする」(120ページ)
- 「複数の部屋で音楽を楽しむ(ゾーン機能)」(93ページ)

バイアンプ接続する(応用編)

バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続します。

バイアンプ機能を有効にすると、フロント左右のスピーカーそれぞれに2つのアンプを割り当てます。高音域と低音域を別々のアンプで駆動することで、よりクリアで余裕のある音質を実現します。

バイアンプ機能を有効にするには、設定の変更が必要です。



ご注意

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具(またはケーブル)を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具(またはケーブル)を取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

次の接続は同時に使用できません。

- ハイトスピーカー
- サラウンドバックスピーカー
- ゾーンBスピーカー
- バイアンプ接続

次の手順

- 「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)

関連リンク

「スピーカーの設定をする」(120ページ)

スピーカーを接続する

スピーカーとスピーカーケーブルの準備

お知らせ

- スピーカーは使用するシステムに応じた数を準備してください。
- フロントスピーカー(左/右)は必ず接続してください。
- サラウンドバックスピーカー使用時は、必ず左右2台を接続してください。1台のみでは使用できません。

■ スピーカーの準備

本製品は7チャンネルのアンプを内蔵しています。環境や楽しみ方に合わせて、2〜7本のスピーカーと1〜2台のサブウーファーを接続できます。

本製品に接続するスピーカーとサブウーファーは、以下の点に注意して準備してください。

- スピーカーはインピーダンス6 Ω以上のものを使用
- サブウーファーはアンプ内蔵のものを使用

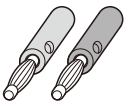
関連リンク

「スピーカーの設定をする」(120ページ)

■ スピーカーケーブルの準備

本製品とスピーカーを接続するために、次のケーブル(市販品) を準備してください。

- バナナプラグ(スピーカーケーブルの接続に使用する場合)



- スピーカーケーブル(スピーカー接続用)



- モノラルピンケーブル(サブウーファー接続用)



次の手順

- 「スピーカーケーブルを接続する」(43ページ)

スピーカーケーブルを接続する

本製品にスピーカーとサブウーファーを接続します。

接続する前に、本製品とスピーカーやサブウーファーの電源プラグをコンセントから外してください。

本製品とスピーカーのー(マイナス)端子どうし、＋(プラス)端子どうしをスピーカーケーブルで接続してください。本製品では赤色の端子が＋(プラス)、黒色の端子がー(マイナス)です。

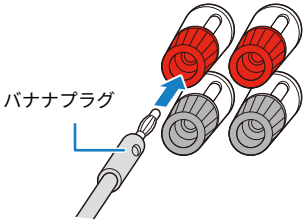
■ バナナプラグを使う場合

バナナプラグを使用すると、スピーカーケーブルをそのまま使う場合よりも、比較的簡単で安全に接続できます。

1　スピーカー端子を締める。



2　バナナプラグを入力端子に差し込む。



■ スピーカーケーブルをそのまま使う場合

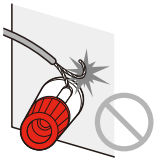
バナナプラグを使用しない場合、スピーカーケーブルのみでも接続できます。

ご注意

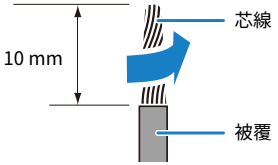
- スピーカーケーブルを加工するときは、本製品から離れた場所で行ってください。スピーカーケーブルの芯線が本製品内部に入りショートするなど、故障の原因となります。
- 誤った方法でスピーカーケーブルを接続すると、スピーカーケーブルがショートし、本製品やスピーカーが故障する原因となります。
  ・芯線どうしを接触させないでください。



・芯線を本製品の金属部(リアパネル、ネジなど)に接触させないでください。

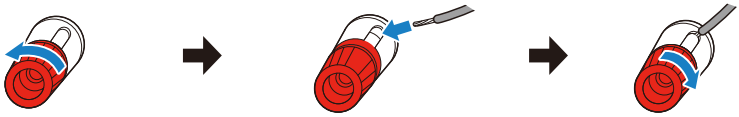


1 スピーカーケーブル先端の被覆(絶縁部)を約10 mmはがし、芯線をしっかりとよじる。





2 スピーカーケーブルをスピーカー端子に取り付ける。



スピーカー端子をゆるめる。

端子側面(右上または左下)のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

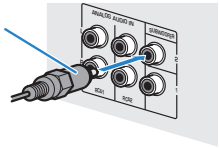
端子を締め付ける。

これでスピーカーの接続は完了です。

■ サブウーファーを接続する場合

本製品とサブウーファーをモノラルピンケーブルで接続してください。

モノラルピンケーブル



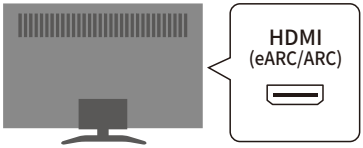
次の手順

- 「テレビを接続する」(46ページ)

テレビを接続する

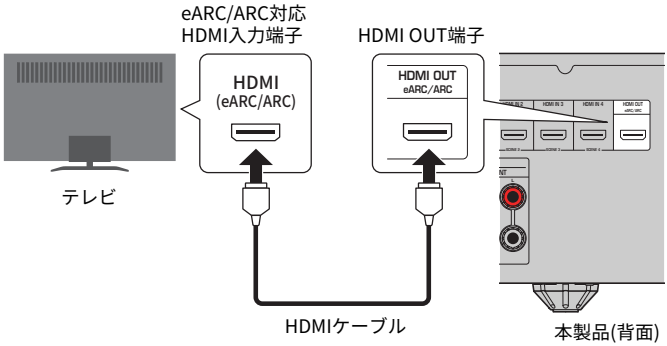
HDMIケーブルを使って、本製品とテレビを接続します。本製品からの映像をテレビへ出力し、テレビの音声を本製品で再生できるようにします。

1　テレビのeARC/ARC HDMI端子の位置を確認する。



eARC/ARC対応のHDMI端子がない場合には、音声の再生に光デジタルケーブルを利用します。
接続方法は、次の「光デジタルケーブルで接続する」をご覧ください。

2　HDMIケーブルで、本製品のHDMI OUT端子と、テレビのeARC/ARC HDMI端子を接続する。



eARC/ARC HDMI端子がない場合は、空いているHDMI端子に接続してください。

3　接続したテレビのHDMI端子の端子名をメモする。
このあとのテレビの入力選択の際、使用します。

eARC・ARCとは

- ARCとは、Audio Return Channel(オーディオ・リターン・チャンネル)の略称です。テレビのARC対応HDMI入力端子とAV機器(AVレシーバーやサウンドバーなど)のARC対応HDMI出力端子をHDMIケーブルで接続することで、光ケーブルなどを接続することなくテレビの音声をAV機器で再生できます。
- eARCとは、Enhanced Audio Return Channel(エンハンスド・オーディオ・リターン・チャンネル)の略称です。ARCの機能を拡張したもので、非圧縮の5.1ch、7.1ch、オブジェクトベースオーディオ(Dolby AtmosやDTS:X)などもテレビ経由で伝送できます。

お知らせ

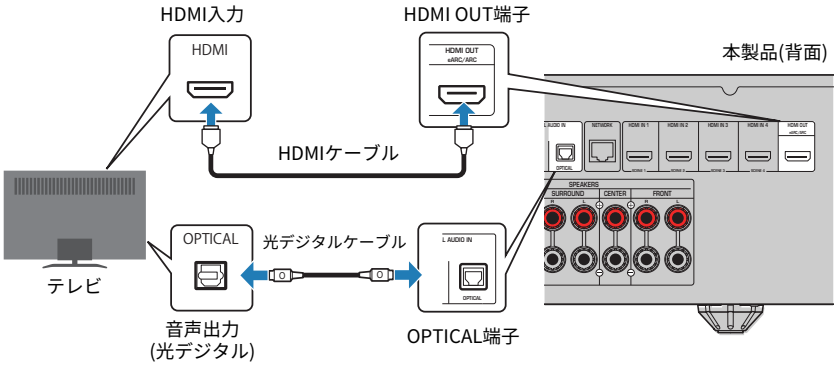
- HDMIロゴ入りのHDMIケーブル(19ピン)をご使用ください。また、信号の品質劣化を防ぐため、なるべく短いケーブルのご使用をおすすめします。
- 8K映像をお楽しみになる場合は、ウルトラハイスピードHDMIケーブルまたはイーサネット対応ウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- 3D映像、4K Ultra HD映像をお楽しみになる場合は、プレミアムハイスピードHDMIケーブルまたはイーサネット対応プレミアムハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- eARCやARCを使う場合は、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルなど、eARC/ARCに対応したHDMIケーブルをご使用ください。
- テレビ側の設定が必要な場合があります。テレビの取扱説明書もご参照ください。
- プロジェクターを使う場合は、プロジェクターのHDMI入力端子に接続してください。

関連リンク

「テレビの音声を聴く」(65ページ)

■ 光デジタルケーブルで接続する

テレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、光デジタルケーブルも接続してください。



お知らせ

テレビが備える音声出力端子により、光デジタル以外の接続(同軸デジタル、アナログステレオ)もできます。この場合は、設定メニューの「TV音声入力」の設定を変更してください。

関連リンク

- 「テレビの音声を聴く」(65ページ)
- 「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)

次の手順

- 「ネットワーク接続の準備をする」(49ページ)

ネットワーク接続の準備をする

ネットワークに接続することで、インターネットラジオを本製品で再生できます。

■ ネットワーク接続方法の選択

本製品は有線接続と無線接続に対応しています。

有線接続している場合は、有線接続が優先して使用されます。有線接続するには、下の「ネットワークケーブルを接続する」をご覧ください。本製品にLANケーブルが接続されていない場合は、無線接続になります。お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選んでください。

ご注意

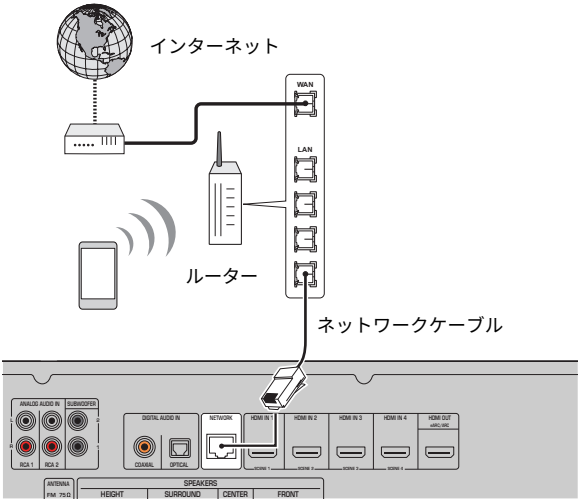
- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティーを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。

関連リンク

- 「専用アプリでネットワーク接続する」(59ページ)
- 「ネットワークへの無線接続方法を選ぶ」(198ページ)

■ ネットワークケーブルを接続する

有線接続する場合は、市販のLANケーブル(CAT-5以上のSTPストレートケーブル)を使って、本製品をルーターに接続します。ルーターがDHCPサーバー対応のとき、本製品でネットワーク設定を行う必要はありません。



本製品(背面)

お知らせ

- 電磁干渉防止のためには、STP(Shielded Twisted Pair)ケーブル(シールド付きツイストペアケーブル)をお使いください。
- ルーターがDHCPサーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定が必要になります。

関連リンク

「ネットワークの設定をする」(138ページ)

次の手順

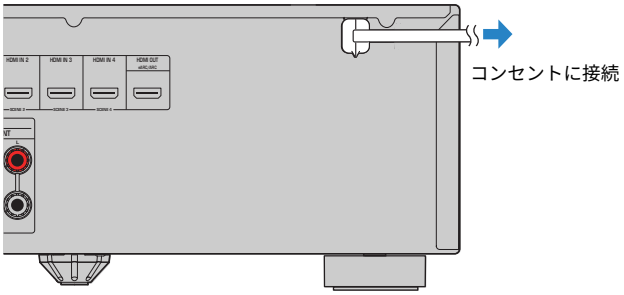
• 「電源に接続する」(51ページ)

本製品の電源を入れる

電源に接続する

すべての接続が完了したら、本製品の電源プラグをコンセントに接続します。

本製品(背面)



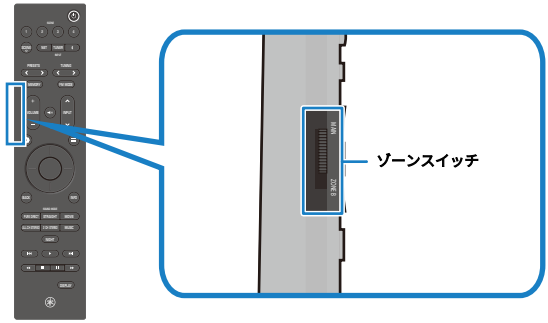
次の手順

- 「電源を入れる(メインゾーン)」(52ページ)

電源を入れる(メインゾーン)

メインゾーンの電源を入れます。
メインゾーンとは、本製品を設置した部屋のことです。

1　ゾーンスイッチを「MAIN」に切り替える。



2　⏻(電源)キーを押す。

キーを押すたびに、メインゾーンの電源を入/切(スタンバイ)できます。

次にテレビ画面の案内にしたがって、言語設定やスピーカー設定をします。

次の手順

- 「セットアップガイドを使って初期設定をする」(53ページ)

関連リンク

「リモコンの各部の名称と機能」(17ページ)

セットアップガイドを使って初期設定をする

初めて本製品の電源を入れたときは、テレビ画面の案内(セットアップガイド)にしたがって初期設定をします。

設定内容は以下のとおりです。

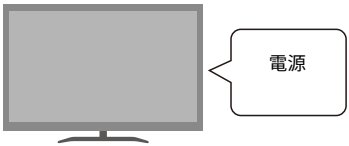
- セットアップガイド
  - ・言語設定
  - ・ルームコレクションを使ったスピーカー設定

お知らせ

ここでセットアップガイドをスキップしても、設定メニューの「セットアップガイド」から初期設定ができます。

■ 言語設定をする

1 テレビの電源を入れる。



2 テレビの入力を切り替える。

テレビ側の入力を本製品と接続したHDMI OUT端子の入力に切り替えます。



ご利用のテレビの種類によっては、表示が異なる場合があります。

3 テレビ画面にセットアップガイドが表示されていることを確認する。



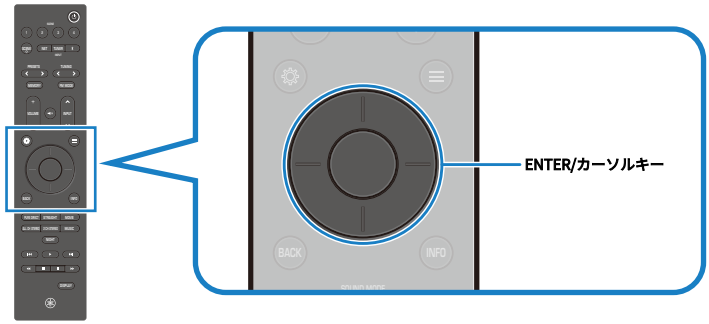
表示までに数十秒かかることがあります。少し待っても表示されていない場合は、「テレビを接続する」(46ページ)からやり直してください。

ご注意

- この時点ではセットアップマイクを本製品に接続しないでください。

4 言語を選択する。

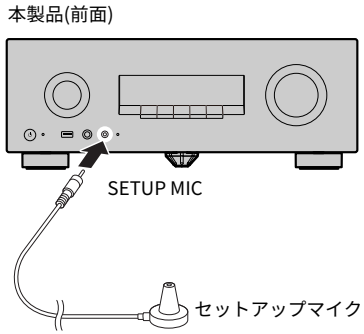
カーソルキーで言語を選び、ENTERキーを押します。



■ ルームコレクションを使ってスピーカー設定をする

1 セットアップマイクを接続する。

付属のセットアップマイクを本製品のSETUP MIC端子に接続します。

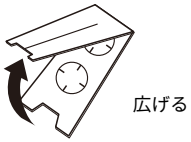


お知らせ

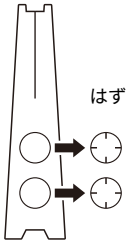
ルームコレクションは、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや遅延、音色を自動で調整します。

2 簡易マイクスタンドを組み立てる。

1

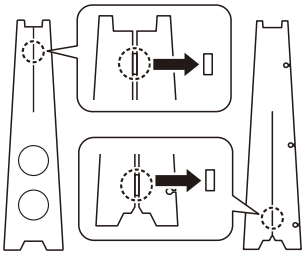


2

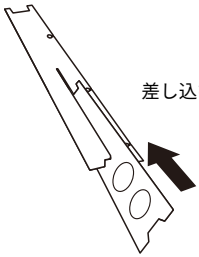


3

取る

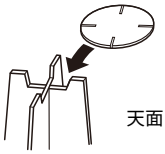


4

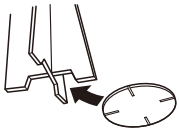


差し込む

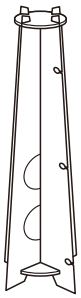
5



天面と底面に差し込む



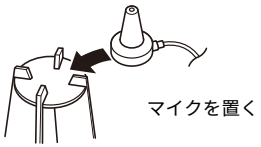
6



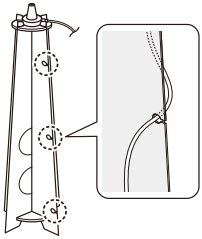
マイクスタンド完成

3 セットアップマイクを視聴位置に置く。

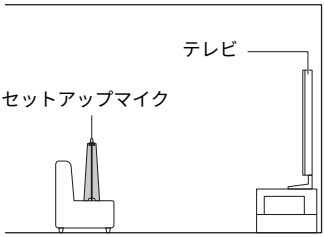
1 セットアップマイクを簡易マイクスタンドの上に置く。



2 セットアップマイクのケーブルを簡易マイクスタンドの穴に引っ掛ける。



3 マイクを取り付けた簡易マイクスタンドを視聴する位置に置く。



お知らせ

視聴時の耳の高さと合わせると、補正の効果がより高まります。カメラの三脚などを用いることもできます。

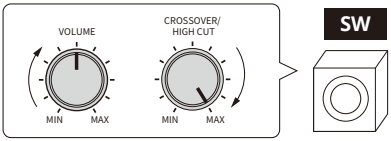
4 サブウーファーを設定する。

サブウーファーを設定することで、迫力のある低音をお楽しみいただけます。サブウーファーを使用する場合は、設定してください。

1 サブウーファーの電源を入れる。

2 音量を最大音量の半分にする。

3　クロスオーバーが調整可能な場合は最大にする。



5　テレビ画面の表示にしたがって測定する。

ご注意

- 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。
- 測定中は音量を調節できません。
- 測定中は部屋を静かに保ってください。
- 測定中は部屋の後方の隅にとどまり、スピーカーとセットアップマイクの間を遮らないようにしてください。
- ヘッドホンは接続しないでください。

6　測定結果を確認して、「保存」を選択する。

測定が終わると、テレビに結果が表示されます。
内容を確認して問題がなければ、「保存」を選択してください。

7　設定完了の画面が表示されたら、セットアップマイクを本製品から取り外す。

これでルームコレクションは完了です。

次の手順

- ネットワークに無線接続する場合：
  - 「専用アプリでネットワーク接続する」(59ページ)
- ネットワークに有線接続する場合：
  - 「AV機器をHDMI接続する」(60ページ)
  - 「AV機器をHDMI以外で接続する」(61ページ)

関連リンク

- 「初期設定をする」(119ページ)
- 「メニュー言語設定をする」(142ページ)
- 「スピーカーの設定をする」(120ページ)

専用アプリでネットワーク接続する

ネットワークに無線接続する場合は、専用アプリ「Audio Connect」を使用して、ネットワークに接続してください。有線接続する場合は、この手順を飛ばしてください。

専用アプリ「Audio Connect」により、本製品のネットワーク接続をすることもできます。「Audio Connect」では、ネットワークコンテンツの操作もできます。Google Cast™機能を使用するためには、本アプリを用いての設定が必須です。

「Audio Connect」は、テレビ画面に表示されたQRコード、または下のQRコードからインストールできます。

1 **「Audio Connect」をインストールする。**

2 **「Audio Connect」を開き、無線ネットワークに接続する。**
アプリの案内にしたがって、無線ネットワークに接続してください。

ご注意

- 有線でネットワーク接続している場合でも、インターネットラジオ・Podcasts・Google Cast機能を使用するにはアプリによる設定、または操作が必要です。
- ネットワーク上のウェブブラウザから本製品を設定できる、ウェブベースの設定項目を利用できます。これらの設定では、アプリと同様の機能を利用できます。

お知らせ

設定メニューの「無線接続」＞「アプリで接続」からQRコードを表示することもできます。

次の手順

- AV機器をHDMI接続する場合：
  - 「AV機器をHDMI接続する」(60ページ)
- AV機器をHDMI以外で接続する場合：
  - 「AV機器をHDMI以外で接続する」(61ページ)

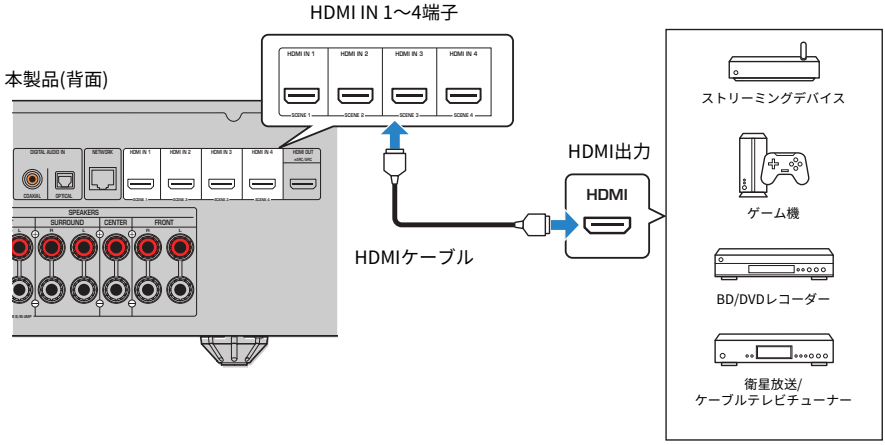
関連リンク

- 「ネットワークの設定をする」(138ページ)
- 「専用アプリについて」(207ページ)

AV機器を接続する

AV機器をHDMI接続する

HDMIケーブルを使って、本製品にAV機器を接続します。



お知らせ

8K映像をお楽しみいただくには、設定メニューの「HDMI設定」＞「映像フォーマット」を、「8Kモード」に設定してください。

次の手順

- 「ラジオのアンテナを接続する」(62ページ)

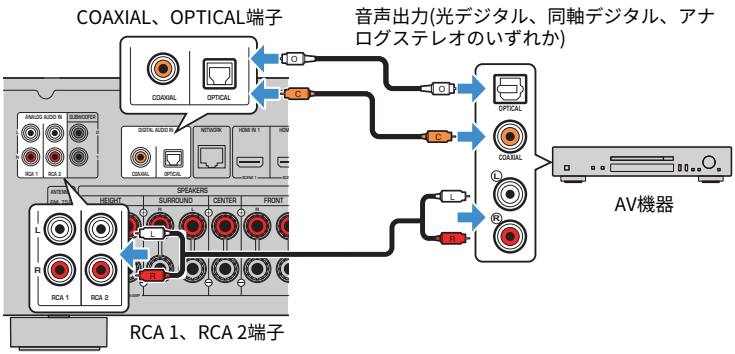
関連リンク

「HDMIの設定をする」(125ページ)

AV機器をHDMI以外で接続する

本製品にCDプレーヤーなどのAV機器をHDMI端子以外に接続します。
接続するAV機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

AV機器の音声出力端子	本製品背面の音声入力端子	テレビ画面のメニュー、フロントディスプレイに表示される端子名
同軸デジタル	DIGITAL AUDIO IN(COAXIAL)	COAXIAL
光デジタル	DIGITAL AUDIO IN(OPTICAL)	OPTICAL
アナログステレオ	ANALOG AUDIO IN(RCA 1、RCA 2)	Analog RCA 1、Analog RCA 2



次の手順

- 「ラジオのアンテナを接続する」(62ページ)

関連リンク

「リアパネルの各部の名称と機能」(13ページ)

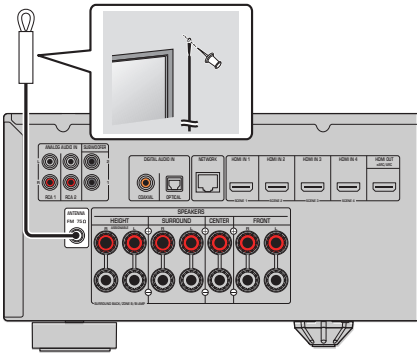
ラジオのアンテナを接続する

FMアンテナを接続する

本製品に付属のFMアンテナを接続します。

接続後、FMアンテナは壁に固定してください。

FMアンテナ



本製品(背面)

お知らせ

アンテナの固定位置により電波の入り具合は変わります。ラジオがうまく受信できないときは、FMアンテナの高さ、方向、配置を調節してください。

再生

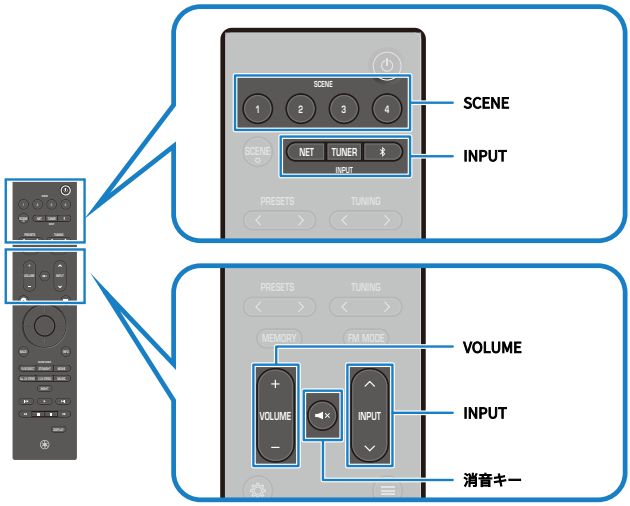
基本操作

再生の基本操作

映像や音楽を再生する場合の基本的な操作方法を説明します。

1 **外部機器を視聴する場合は、外部機器の電源を入れる。**

2 **INPUTキーで入力を選ぶ。**



3 **外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。**

4 **VOLUMEキーで音量を調節する。**

SCENEキーの入力設定が初期値の場合、SCENEキー1～4を押してHDMI 1～4の入力を選ぶことができます。

お知らせ

- ◀×(消音)キーを押すと消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- 外部機器の操作については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

音声/映像信号情報を確認する

リモコンのINFOキーを押すと、テレビ画面に音声/映像信号の情報が表示されます。

信号方式	入力信号の音声フォーマット
チャンネル	入力信号のチャンネル数(フロント/サラウンド/LFE) 「3/2/0.1」と表示されている場合、フロント3ch、サラウンド2ch、LFE(低域効果音)0.1ch
サンプリング	入力デジタル信号の1秒あたりのサンプル数
映像入力	入力中のデジタル映像信号の種類と解像度
カラーフォーマット	映像信号の方式
HDR	HDR(ハイダイナミックレンジ)の方式

お知らせ

- 入力によっては表示されない項目があります。
- Dolby Atmos再生時は、チャンネルが表示されません。

テレビの音声を聴く

■ eARC/ARCを使用してテレビの音声を聴く

eARC/ARC対応のテレビと本製品をHDMIケーブルで接続すると、テレビの音声を本製品で再生できます。

テレビのリモコンで視聴する番組を選択すると、本製品の入力が自動的に「TV」に切り替わり、テレビの音声が本製品から出力されます。

お知らせ

- テレビはHDMIコントロール機能に対応している必要があります。
- 本製品とテレビを連動させたくない場合は、HDMIコントロール機能をオフにしてください。eARCの場合のみ設定できます。
- ARCを使用する場合は、HDMIコントロール機能とARC機能をオンにする必要があります。
- テレビ側の設定が必要な場合があります。設定は、eARC/ARCの両方が必要な場合もあります。詳しくはテレビの取扱説明書もご参照ください。
- テレビがeARC/ARC対応でない場合や、eARC/ARC使用時に音声が途切れる場合は、光デジタルケーブルで本製品とテレビを接続してください。

■ 光デジタルケーブルで接続したテレビの音声を聴く

テレビがeARC/ARC非対応など、HDMI接続以外でテレビの音声を再生したい場合は、光デジタルケーブルを使って、テレビの音声を本製品に入力できます。

1 **設定メニューの「ARC」を「オフ」にする。**

2 **テレビのリモコンで視聴コンテンツ(番組)を選ぶ。**
本製品の入力が自動的に「TV」に切り替わり、テレビの音声が本製品から出力されます。

お知らせ

- テレビはHDMIコントロール機能に対応している必要があります。
- 同軸、アナログ接続でテレビの音声を聴くときは、設定メニューの「ファンクション設定」＞「TV音声入力」の設定を変更してください。
- 「HDMIコントロール」を「オフ」にした場合は、入力を手動で「TV」に切り替えてからテレビのリモコンを操作してください。

関連リンク

- 「テレビを接続する」(46ページ)
- 「HDMIの設定をする」(125ページ)

ラジオを聴く

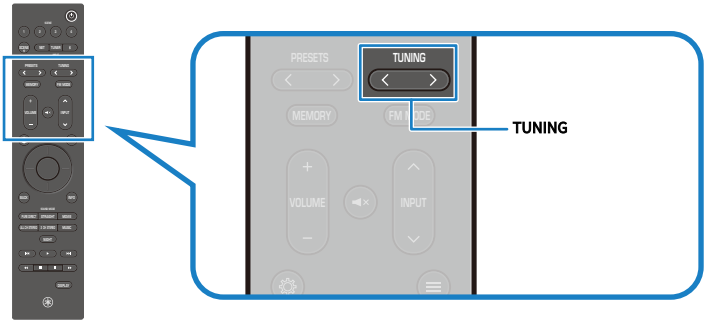
ラジオを聴く

本製品に内蔵のチューナーを使用して、ラジオを聴くことができます。

1 **TUNERキーを押して、入力を「TUNER」に切り替える。**
フロントディスプレイに選択中の周波数が表示されます。



2 **TUNINGキーを繰り返し押し、周波数を切り替える。**
約1秒押し続けると、自動で選局します。



お知らせ

- ラジオを聴きながら、外部機器の映像を楽しめます。詳しくは、関連リンクをご覧ください。
- 登録したラジオ局を選ぶには、PRESETSキーを押します。ラジオ局を登録する方法は、関連リンクをご覧ください。

関連リンク

- 「音声入力・映像入力端子を選択する」(106ページ)
- 「ラジオ局を登録・登録解除する」(67ページ)

ラジオ局を登録・登録解除する

ラジオ局を選局し、プリセット番号に登録します。

■ ラジオ局を手動で登録する

1. **登録するラジオ局を選局する。**
2. **MEMORYキーを押す。**
3. **PRESETSキーを押してプリセット番号を選択する。**
4. **MEMORYキーを押す。**

これで登録は完了です。

お知らせ

- 最大40局のラジオ局を登録できます。
- 前回登録したプリセット番号の次の空き番号にラジオ局を登録する場合は、登録したいラジオ局を受信中にMEMORYキーを押します。
- 登録せずに元の画面に戻る場合は、BACKキーを押します。
- 無操作状態が30秒続くと、自動で元の画面に戻ります。

■ ラジオ局を自動で登録する(オートプリセット)

FMラジオ局は自動でも登録できます。信号の強いFMラジオ局が自動でプリセット番号に登録されます。

1. **受信バンドをFMに切り替える。**
2. **登録をスタートするラジオ局を選局する。**
   このラジオ局以降の周波数のラジオ局が自動で登録されます。
3. **☰(オプションメニュー)キーを押す。**
4. **「プリセット」を選ぶ。**
5. **「オートプリセット」を選ぶ。**
   登録を開始するプリセット番号が表示されます。開始する番号は選択できます。
6. **ENTERキーを押す。**
   オートプリセットが開始されます。

お知らせ

最大40局のラジオ局を登録できます。

■ ラジオ局の登録を解除する

1. **入力を「TUNER」に切り替える。**
2. **☰(オプションメニュー)キーを押す。**
3. **「プリセット」を選ぶ。**
4. **「クリアプリセット」を選ぶ。**
5. **カーソルキーで登録を解除するプリセット番号を選ぶ。**
6. **ENTERキーを押す。**
7. **別の登録を解除するには、手順5と6を繰り返す。**
8. **☰(オプションメニュー)キーを押す。**

関連リンク

- 「ラジオを聴く」(66ページ)
- 「ラジオ局を登録・登録解除する」(108ページ)

Bluetooth®機器の音声を再生する

Bluetooth機器(スマートフォンなど)を本製品にワイヤレス接続して、音楽ファイルなどを再生します。

注意

- Bluetooth機器で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、聴覚障害や機器の損傷の原因になる場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに再生を停止してください。



本製品　　Bluetooth 機器
(スマートフォンなど)

1　リモコンのᛒキーを押して、入力を「Bluetooth」に切り替える。

2　フロントディスプレイに「Pairing...」と表示されていることを確認する。
表示されていない場合は、ᛒキーを長押ししてください。
本製品がペアリングモードに切り替わります。ペアリングモードに切り替わると、フロントディスプレイの「ᛒ」が点滅します。
オプションメニューの「ペアリング」からも操作できます。

3　Bluetooth機器で本製品(本製品のネットワーク名称)を選ぶ。
本製品の初期設定名は「RX500A-******」です。「******」の部分は機器により異なります。
パスキーの入力が必要な場合は、数字「0000」を入力してください。

4　Bluetooth機器で音声を再生する。

お知らせ

- 入力を切り替えたときにペアリング済みのBluetooth機器を検出した場合は、自動的に接続されます。
- Bluetooth機器によっては、再生中にBluetooth機器から本製品の音量を操作できます。
- Bluetooth機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
  - ・Bluetooth機器で切断操作をする。
  - ・本製品の入力を「Bluetooth」以外に切り替える。
  - ・設定メニューの「Bluetooth設定」＞「Bluetooth設定」で「オフ」を選択する。
- Bluetooth機器が接続されているときは、フロントディスプレイの「ᛒ」が点灯します。



関連リンク

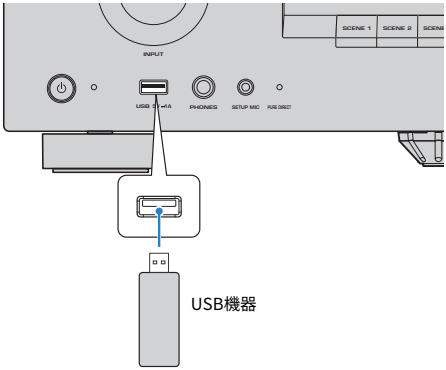
- 「Bluetooth®機器を本製品に登録する」(111ページ)
- 「Bluetooth®入力を自動選択する」(112ページ)
- 「Bluetooth®の設定をする」(141ページ)

USB機器の曲を再生する

USB機器に保存されている音楽ファイルなどを本製品で再生します。

1　USB機器をUSB端子に接続する。

本製品(前面)



2　入力を「USB」に切り替える。
テレビにブラウズ画面が表示されます。

3　テレビのブラウズ画面で、コンテンツを選ぶ。
選択したコンテンツの再生が始まります。

ご注意
- お使いのUSB機器によっては正常に動作しないことがあります。

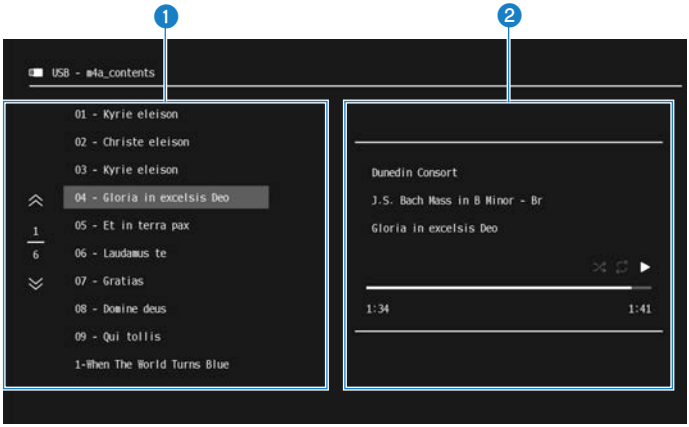
お知らせ
- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかる場合があります。
- フォルダーとファイルを合わせて最大999個のアイテムをブラウズ画面に表示できます。この制限を超えたフォルダーやファイル名は表示されません。サポートするフォルダーの階層は、ルート階層を含めて10レベルまでです。
- USB機器は再生を停止させてから取り外してください。
- USB機器は直接本製品のUSB端子に接続してください。延長ケーブルなどは使わないでください。
- 本製品がスタンバイ中は、USB機器に電源が供給されません。
- 曲のシャッフル再生/リピート再生ができます。
- 本製品に初めてUSB機器を接続した場合は、USB機器の一番上のフォルダー(ルートフォルダー)内の先頭曲が自動再生されます。

関連リンク
「シャッフル/リピート再生を設定する」(109ページ)

■ ブラウズ画面の各部の名称と機能

USB機器をUSB端子に接続するとテレビにブラウズ画面が表示されます。

ブラウズ画面はブラウズパート(画面左側)と再生情報パート(画面右側)で構成され、USB機器の再生が停止中はブラウズパートのみが表示されます。

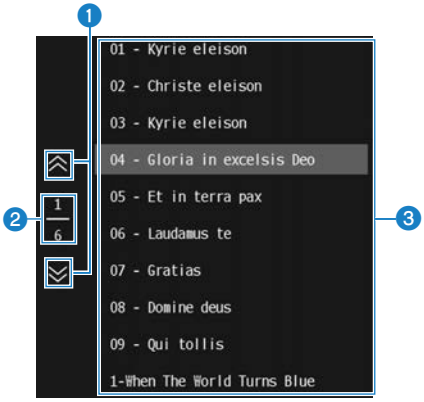


❶ **ブラウズパート**

❷ **再生情報パート**

ブラウズパート(画面左側)

USB機器で再生するコンテンツを選択します。



❶ **操作ボタン**

カーソルキーでアイコンを選び、ENTERキーを押します。リストが1ページアップ/ダウンします。

❷ **現在のページ/総ページ数**

❸ **コンテンツリスト**

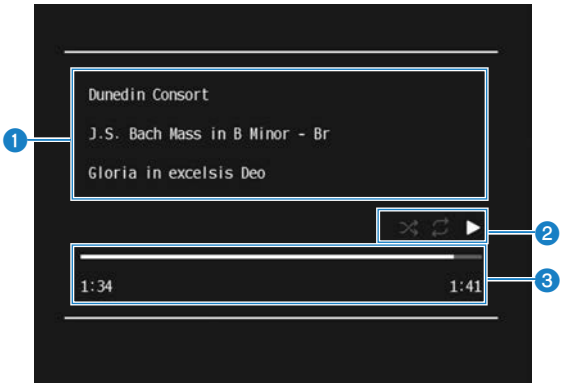
コンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTERキーを押します。

お知らせ

他入力の映像と合わせてUSB機器の曲を再生しているときは、ページ数の下に画面オフボタンが表示されます。これを押すと、USB機器のブラウズ画面が表示されなくなります。再度表示する時はBACKキーを押します。

再生情報パート(画面右側)

コンテンツの再生を開始すると、再生情報パートが表示されます。



❶ **音楽情報**

アーティスト名、アルバム名、曲名(トラック名)が表示されます。

❷ **再生情報**

シャッフル再生、リピート再生、再生状態(再生/一時停止など)が表示されます。

❸ **プログレスバーと時間**

再生時間、曲の長さと、プログレスバーが表示されます。

お知らせ

再生内容によって表示が異なります。

AirPlayで音楽を聴く

AirPlayを使って、音楽などを本製品で再生します。iPhoneやiTunes/ミュージックのAirPlayアイコンをタップ(クリック)し、出力先として本製品を選択してください。



注意

- AirPlay機器で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、聴覚障害や機器の損傷の原因になる場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに再生を停止してください。

お知らせ

- AirPlay機器で再生を始めると本製品の電源を自動的に入れる設定ができます。
- AirPlay機器に表示される本製品のネットワーク表示名を変更できます。
- 再生中はAirPlay機器から本製品の音量を操作できます。
- 本製品はAirPlay 2に対応しています。
- AirPlayについては、Apple社のホームページをご覧ください。

関連リンク

「ネットワークの設定をする」(138ページ)

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ局を選択して再生を始めます。

1 **NETキーを押して、入力を「Net Radio」または「Podcasts」に切り替える。**

2 **専用アプリでコンテンツを選ぶ。**
再生が始まります。

お知らせ

- 入力を切り替えるには、NETキーを繰り返し押してください。
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- この機能は、airable.Radioのサービスを利用します。airableは、airable GmbHが提供するサービスです。
- 本サービスについては、予告なく変更、停止または終了することがあります。ヤマハ株式会社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

関連リンク

「専用アプリについて」(207ページ)

ストリーミングサービスを聴く

各種ストリーミングサービスが配信するコンテンツを再生します。

対応しているストリーミングサービスについては、ヤマハウェブサイトの製品情報ページ、または専用アプリでも確認できます。

■ ストリーミングサービスについて

対応するストリーミングサービスは、製品や地域によって異なります。製品が対応していても、サービス提供地域以外ではご利用になれません。また、サービス提供地域であっても、製品が対応していなければご利用になれません。

お知らせ

- ストリーミングサービスによって、有料サービスの申し込みが必要になる場合があります。詳しくは、サービス提供者のウェブサイトをご覧ください。
- ストリーミングサービスについては、予告なく変更、停止または終了することがあります。ヤマハ株式会社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

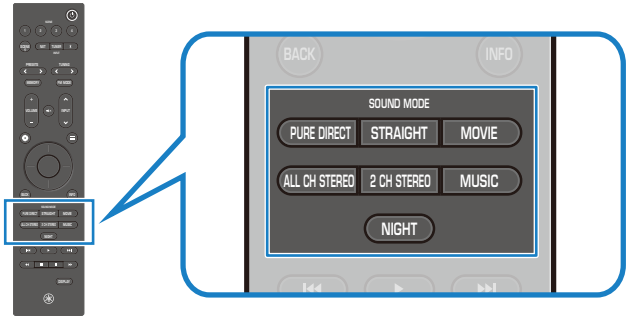
関連リンク

「ネットワークの設定をする」(138ページ)

音を楽しむ

お好みのサウンドを選ぶ(サウンドモード)

本製品はサラウンド再生用のサウンドモードとステレオ再生用のサウンドモードを搭載しています。また、各種のサウンド設定で、さらにお好みのサウンドにできます。



- **PURE DIRECT**：ノイズを抑え、より高品位音で再生します。再生に必要な基本機能を除いた各種の処理モードや回路(フロントディスプレイなど)を停止します。
- **STRAIGHT**：音場効果をかけずに、ステレオまたはマルチチャンネルで再生します。
- **MOVIE**：映像コンテンツに最適な音場効果をかけ、すべてのスピーカーから再生します。明瞭なセリフ、迫力のある低域、空間全体を満たすサラウンド感を重視しています。
- **ALL CH STEREO**：すべてのスピーカーから、音場効果をかけずにステレオ再生します。
- **2 CH STEREO**：音場効果をかけずにフロントスピーカーからステレオ再生します。
- **MUSIC**：音楽コンテンツに最適な音場効果をかけ、すべてのスピーカーから再生します。ボーカルのステージ感、締りのある低域、自然で主張しすぎないサラウンド感を重視しています。
- **NIGHT**：夜間に再生するときなど小音量でも聴きやすくなります。すべてのスピーカーから再生します。

お知らせ

サウンドモードは入力ごとに記憶されます。

関連リンク

- 「オリジナルの音声を楽しむ(ストレートデコード)」(79ページ)
- 「より高品位な再生を楽しむ(ピュアダイレクト)」(80ページ)
- 「映像コンテンツに適した音声を楽しむ(MOVIE)」(81ページ)
- 「音楽コンテンツに適した音声を楽しむ(MUSIC)」(82ページ)
- 「音場効果をかけずにステレオ再生を楽しむ(2 CH STEREO)」(83ページ)
- 「全スピーカーからステレオ再生を楽しむ(ALL CH STEREO)」(84ページ)

オリジナルの音声を楽しむ(ストレートデコード)

音場効果をかけずに再生できます。CDなどの2チャンネルソースは、フロントスピーカーからステレオ音声で再生し、マルチチャンネルソースは、マルチチャンネル音声で再生します。

STRAIGHTキーを押すと、サウンドモードが「STRAIGHT」に切り替わり、フロントディスプレイに「STRAIGHT」が表示されます。

お知らせ

サラウンドバックスピーカーを接続している状態で、5.1chの音声信号が入力されたときは、7.1chで再生します。

より高品位な再生を楽しむ(ピュアダイレクト)

ノイズを抑えたより高品位な再生が行えます。再生に必要な基本機能を除いた各種の処理モードや回路(フロントディスプレイなど)を停止します。

PURE DIRECTキーを押すと、サウンドモードが「PURE DIRECT」に切り替わり、フロントパネルの「PURE DIRECT」が点灯します。

お知らせ

ピュアダイレクト使用時、次の機能は使用できません。

- ゾーン機能
- オプションメニュー、設定メニューの操作
- フロントディスプレイの表示(操作がない場合)

■ ピュアダイレクト使用時の信号処理について

本製品では、ピュアダイレクト使用時は、アナログ音声信号をデジタル音声信号に変換せずに出力します。

次表は、ピュアダイレクト使用時の動作の違いを示したものです。

項目	アナログ信号	デジタル信号
スピーカーの距離補正	無効	有効
スピーカーのレベル調整	無効	有効
イコライザーの選択	無効	無効
エクストラベース(サブウーファー有効化)	無効	有効
エクストラベース(低音域強調)	無効	無効
低音域調整	無効	有効
その他の音質調整(トーンコントロール、ダイナミックレンジ、ルームコレクションなど)	無効	無効

関連リンク

「スピーカーの設定をする」(120ページ)

映像コンテンツに適した音声を楽しむ(MOVIE)

映像コンテンツに最適な音場効果をかけ、すべてのスピーカーから音声を再生します。明瞭なセリフ、迫力のある低域、立体的なサラウンド感を重視しています。効果音、環境音、移動音を立体的に配置し、特に効果音や環境音が上方向に配置されます。

MOVIEキーを押すと、サウンドモードが「MOVIE」に切り替わります。

音楽コンテンツに適した音声を楽しむ(MUSIC)

音楽コンテンツに最適な音場効果をかけ、すべてのスピーカーから音声を再生します。ボーカルのステージ感、締りのある低域、自然で主張しすぎないサラウンド感を重視しています。原音のバランスや音色を重視し、ホール感や空気感のみを上方向に広げます。

MUSICキーを押すと、サウンドモードが「MUSIC」に切り替わります。

音場効果をかけずにステレオ再生を楽しむ(2 CH STEREO)

ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから音が出力されます。

2 CH STEREOキーを押すと、サウンドモードが「2 CH STEREO」に切り替わります。

全スピーカーからステレオ再生を楽しむ(ALL CH STEREO)

ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。すべてのスピーカーから音が出力され、ホームパーティーのBGMに最適です。

ALL CH STEREOキーを押すと、サウンドモードが「ALL CH STEREO」に切り替わります。

低音を楽しむ(エクストラベース)

フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、余裕のある低音を楽しめます。

設定メニューの「スピーカー設定」＞「構成」＞「エクストラベース」で設定します。

お知らせ

環境や設定によって効果を実感しにくいことがあります。

関連リンク

「スピーカーの設定をする」(120ページ)

Dolby Atmos®やDTS:X®を楽しむ

Dolby AtmosやDTS:Xによって、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を楽しめます。

本製品でDolby AtmosやDTS:Xのコンテンツを再生するには、HDMI、eARC経由で入力します。Dolby AtmosやDTS:Xのコンテンツを最大限にお楽しみいただくには、ハイトスピーカーを使用するスピーカーシステムをお勧めします。

お知らせ

- 次の場合は、Dolby AtmosコンテンツであってもDolby TrueHDまたはDolby Digital Plusのフォーマットで再生されます(Dolby Atmos PCMフォーマットの場合は、常にDolby Atmosで再生されます)。
  ・サラウンドバックスピーカー、ハイトスピーカーのいずれも不使用
  ・ヘッドホンを接続(2チャンネル再生になります)
- DTS Dialogue Control対応のDTS:Xコンテンツ再生時は、設定メニューの「DTSダイアローグコントロール」で中央に定位する音(セリフなど)の音量を調整できます。詳しくは関連リンクをご覧ください。

関連リンク

- 「おすすめのスピーカー配置(基本編)」(29ページ)
- 「その他のスピーカー配置(基本編)」(34ページ)
- 「音声の設定をする」(129ページ)

便利な機能

スリープタイマー機能

指定した時間が経過すると、本製品がスタンバイになります。設定メニューの「ファンクション設定」＞「スリープ」から、 スリープタイマーの時間(120分、90分、60分、30分、オフ)を設定してください。

スリープタイマーを設定すると、フロントディスプレイに「SLEEP」が点灯します。



関連リンク

「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)

シーン機能

シーン機能について

シーン機能とは、リモコンまたはフロントパネルのSCENEキー(1～4)を押すことで、入力選択と同時に、あらかじめ登録した設定(サウンドモードや音場効果など)にワンタッチで切り替えられる機能です。登録できる設定は次のとおりです。これらの項目はシーン機能の画面から選択し、有効/無効を設定できます。

- 入力
- コンテンツ
- 音量
- ダイアログの音量
- サブウーファーの音量レベル補正
- サウンドモード
- トーンコントロール
- エクストラベース
- ディマー
- HDMIコントロール
- リップシンク

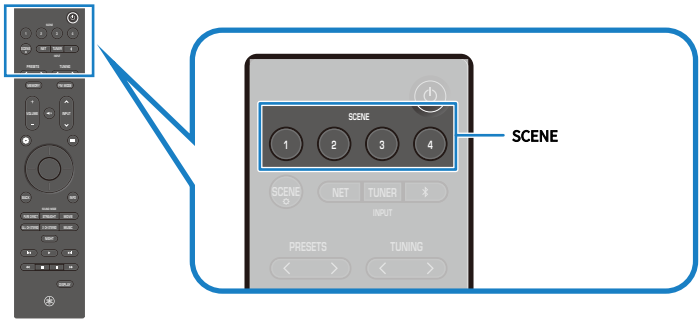
関連リンク

「シーンを呼び出す・登録する」(89ページ)

シーンを呼び出す・登録する

■ シーンを呼び出す

リモコンのSCENEキー1～4を押して、登録してあるシーンを呼び出します。本製品がスタンバイ時は、電源も入ります。SCENE1～4は、フロントパネルのSCENEキー1～4でも呼び出せます。



■ シーンの初期値

初期値では、シーンごとに次の入力設定が登録されています。

メインゾーン

- SCENEキー1：HDMI 1
- SCENEキー2：HDMI 2
- SCENEキー3：HDMI 3
- SCENEキー4：HDMI 4

■ シーンを登録する

本製品の現在の状態をSCENEキーに登録できます。

1. **本製品をSCENEキーに登録したい状態にする。**
2. **フロントディスプレイに「SceneX Created」と表示されるまで、登録先とするSCENEキーを押し続ける。**
   現在の本製品の状態がSCENEキーに登録されます。
   ここで「X」にはシーン番号が表示されます。

これで登録は完了です。

お知らせ

登録したい入力の映像や音声を視聴しながら、登録することをおすすめします。

■ シーン機能で呼び出す項目を設定する

シーンで呼び出す設定項目を選択します。SCENEキーを押したとき、「オン」にした機能のみ呼び出されます。入力は変更したいが、音声設定は変えたくないときなどに便利です。

1. ⚙(設定メニュー)キーを押す。
2. 「シーン」を選ぶ。
3. 「シーン設定」を選ぶ。
4. シーン名(1〜4)を選び、ENTERキーを押す。
5. 項目を選び、「オン」/「オフ」を切り替える。



設定項目	呼び出す内容	ページ
入力設定	入力	63
登録コンテンツ	登録した放送局、音楽コンテンツ (コンテンツを登録できる入力の場合)	—
音量	マスター音量	63
セリフ音量調整	セリフ音量調整	129
サブウーファーレベル補正	サブウーファーの音量レベル補正	104
サウンドモード	サウンドモード	77
トーンコントロール	音域ごとの音量調整	103
エクストラベース	エクストラベース	120

設定項目	呼び出す内容	ページ
ディマー	ディマー	134
HDMIコントロール	コントロール連動	125
リップシンク設定	リップシンク	129

お知らせ

- シーン機能で「HDMIコントロール」を有効にするには、設定メニューの「HDMI設定」＞「HDMIコントロール」を「オン」にしておく必要があります。
- リモコンのSCENE⚙キーを押すと、「シーン設定」画面が直接表示されます。

■ シーン名を変更する

シーンの名称を変更します。シーン名はフロントディスプレイやテレビ画面に表示されます。

1 **⚙(設定メニュー)キーを押す。**

2 **「シーン」を選ぶ。**

3 **「シーン名変更」を選ぶ。**

4 **シーン名(1〜4)を選び、ENTERキーを押して編集画面を開く。**

5 **名称を変更する。**



6 **「確定」を選ぶ。**

これで設定は完了です。

お知らせ

- 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。
- 初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

関連リンク

- 「シーン機能について」(88ページ)
- 「シーンの設定をする」(133ページ)
- 「HDMIの設定をする」(125ページ)

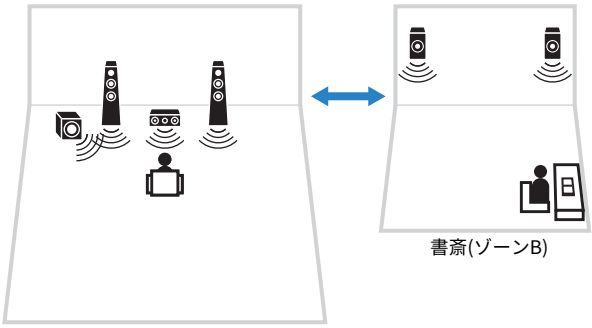
複数の部屋で音楽を楽しむ(ゾーン機能)

ゾーン機能について

ゾーン機能を使用すると、フロントスピーカーを設置した部屋(メインゾーン)と別の部屋(ゾーンB)で再生が行えます。

たとえば次のように、お好みに合わせて使用できます。

- リビングにいるときはメインゾーンで再生し、書斎にいるときはゾーンBで再生します。
- LDKのキッチンをゾーンBにして、テレビの音がキッチンで聞こえにくいときに、キッチンの音量を調節します。



関連リンク

- 「ゾーンスピーカーを接続する」(94ページ)
- 「ゾーンを操作する」(96ページ)

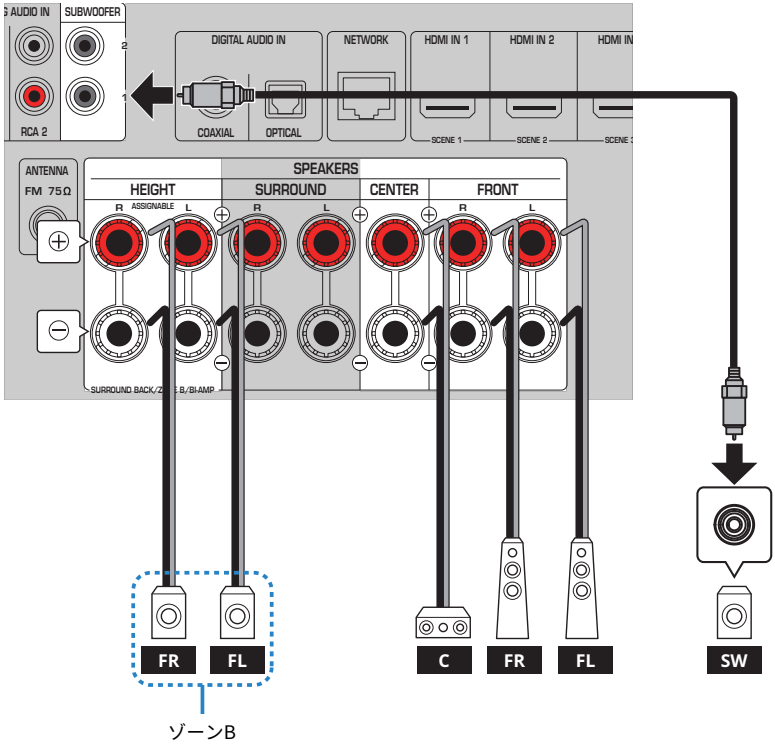
ゾーンスピーカーを接続する

ゾーンスピーカーを、スピーカーケーブルを使って本製品に接続します。

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本製品の電源プラグをコンセントから外してください。

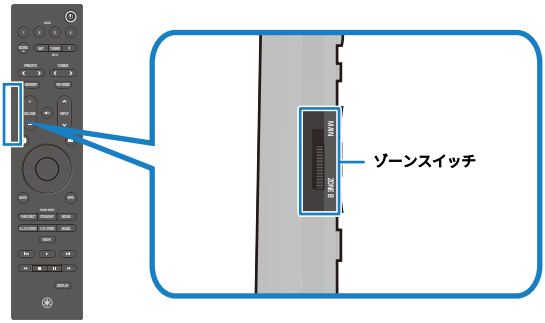
1 ゾーンBスピーカーを、HEIGHT端子に接続する。



HEIGHT端子からゾーンB信号が出力されます。

2 設定メニューの「スピーカー設定」>「構成」>「パワーアンプ割り当て」を「ゾーンB」に変更する。

3　リモコンのゾーンスイッチを、「ZONE B」に切り替える。



お知らせ

ゾーンBを使用している場合、次の接続および機能は同時に使用できません。

- ハイトスピーカー
- サラウンドバックスピーカー
- バイアンプ接続

関連リンク

- 「ゾーン接続する(応用編)」(38ページ)
- 「スピーカーの設定をする」(120ページ)
- 「リモコンの各部の名称と機能」(17ページ)

ゾーンを操作する

お知らせ

リモコンのゾーンスイッチを「ZONE B」にしていても、電源、音量、消音の操作以外はメインゾーンの操作ができます。

■ ゾーン電源を入/切する

操作するゾーンの電源を入/切します。

1. **リモコンのゾーンスイッチを、操作するゾーンに切り替える。**
2. **⏻(電源)キーを押す。**
   キーを押すたびに、ゾーンの電源を入/切できます。
   ゾーンBの電源が入っているときは、フロントディスプレイに「ZONE」が点灯します。



お知らせ

すべてのゾーンの電源を切ると、本製品の電源がスタンバイになります。

■ ゾーンの基本操作

ゾーンの電源を入れたあと、ゾーンスイッチで選択したゾーンを操作することができます。

1. **本製品に接続した外部機器の電源を入れる。**
2. **INPUTキーで入力を選ぶ。**
3. **外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。**
4. **VOLUMEキーで音量を調節する。**

お知らせ

- 外部機器の操作については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 入力はメインゾーンとゾーンBで共通です。

■ ゾーンの音量差を補正する

メインゾーンとゾーンBの音量差が大きい場合、次の手順でゾーンBの音量を調節できます。

1. **☰(オプションメニュー)キーを押す。**
2. **「再生レベル補正」を選ぶ。**
3. **「ゾーンBレベル補正」を選び、音量を調節する。**

これで設定は完了です。

お知らせ

- メニューを操作する場合は、リモコンのゾーンスイッチを「MAIN」に切り替えてください。
- 設定メニューの「ゾーンB 音量連動」を「非同期」に設定時は、調節した音量設定は無効になります。

■ ゾーンの音量を個別に調節する

初期状態ではゾーンBの音量はメインゾーンに連動しますが、次の手順でゾーンBの音量を個別に調節できます。

1. **⚙(設定メニュー)キーを押す。**
2. **「音声設定」を選ぶ。**
3. **「音量」を選ぶ。**
4. **「ゾーンB 音量連動」を選ぶ。**
5. **「非同期」を選ぶ。**
6. **⚙(設定メニュー)キーを押す。**
7. **ゾーンスイッチを「ZONE B」に切り替える。**
8. **VOLUMEキーでゾーンBの音量を調節する。**

お知らせ

- メニューを操作する場合は、リモコンのゾーンスイッチを「MAIN」に切り替えてください。
- 「ゾーンB 音量連動」で「非同期」を選択すると、ゾーンBの音量が一時的に-40 dBに設定されます。
- 🔇(消音)キーを押すと消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- リモコンでメインゾーンとゾーンBを独立して操作できるのは、⏻(電源)キーと、VOLUMEキー、🔇(消音)キーだけです。

関連リンク

- 「音量差を調整する」(104ページ)
- 「音声の設定をする」(129ページ)

設定

メニューについて

本製品は次のメニューを備えています。
以下のメニューは、テレビ画面を見ながらリモコンで操作します。

■ オプションメニュー

再生中のソースにあわせて、本製品の再生関連の機能を設定します。

■ 設定メニュー

本製品の詳細機能を設定します。

関連リンク

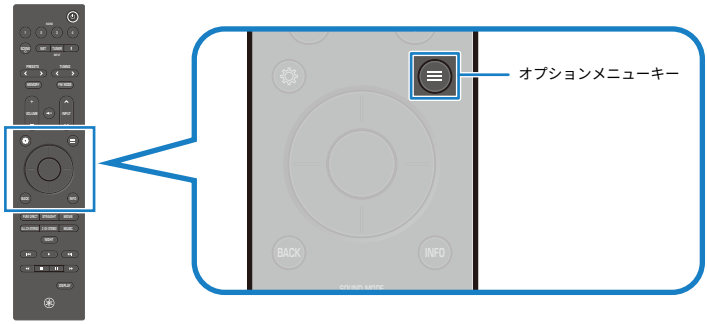
- 「オプションメニュー一覧」(102ページ)
- 「設定メニュー一覧」(115ページ)

再生ソースに合わせて設定する(オプションメニュー)

オプションメニューの基本操作

オプションメニューの基本的な操作方法を説明します。このメニューはテレビ画面を見ながらリモコンで操作します。

1　リモコンの☰(オプションメニュー)キーを押す。



テレビにオプションメニュー画面が表示されます。表示されない場合は、テレビ側の入力を切り替えてください。



2　設定項目を選ぶ。

3　設定を変更する。

4　☰(オプションメニュー)キーを押す。

オプションメニュー画面が閉じます。

これで設定は完了です。

設定 > 再生ソースに合わせて設定する(オプションメニュー)

関連リンク

「オプションメニュー一覧」(102ページ)

オプションメニュー一覧

オプションメニューの一覧です。詳細は、ページ欄のリンク先をご覧ください。

項目		ページ
トーンコントロール	**高音**	103
	低音	
再生レベル補正	**入力レベル補正**	104
	サブウーファーレベル補正	
	ゾーンBレベル補正	
リップシンク		105
音声入力		106
映像選択		
FM モード		107
プリセット	**オートプリセット**	108
	クリアプリセット	
シャッフル		109
リピート		
自動再生		110
ペアリング		111
入力連動		112

お知らせ

選択中の入力によって、設定可能な項目が変わります。

音声のトーンを調整する

音声の高音域(高音)と低音域(低音)の音量を、それぞれ調整します。

オプションメニュー	「トーンコントロール」＞「高音」/「低音」
設定値	-6.0 dB～0.0 dB～+6.0 dB
初期値	0.0 dB

関連リンク

「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

音量差を調整する

入力間、サブウーファー、メインゾーンとゾーンB間の音量差を調整します。

オプションメニュー	「再生レベル補正」＞「入力レベル補正」/「サブウーファーレベル補正」/「ゾーンBレベル補正」
設定値	• 入力レベル補正 ：-6.0 dB～0.0 dB～+6.0 dB • サブウーファーレベル補正：-6.0 dB～0.0 dB～+6.0 dB • ゾーンBレベル補正：-10.0 dB～0.0 dB～+10.0 dB
初期値	0.0 dB

関連リンク

- 「ゾーンを操作する」(96ページ)
- 「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

リップシンク補正を有効/無効にする

リップシンク(映像と音声の出力タイミングのずれの補正)を有効にします。補正値は、設定メニューの「リップシンク」で調整できます。

オプションメニュー	「リップシンク」
設定値	• オン：リップシンクによる補正を有効にする。 • オフ：リップシンクによる補正を無効にする。
初期値	オン

関連リンク

- 「音声の設定をする」(129ページ)
- 「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

音声入力・映像入力端子を選択する

好きなHDMI映像と音声を組み合わせて出力することができます。たとえばゲームをしながら好きな音楽を聴くことができます。

■ 音声入力端子を選択する(音声入力)

現在の映像入力端子に組み合わせる音声入力端子を選択します。映像入力がHDMIの場合に表示されます。

オプションメニュー	「音声入力」
設定値	HDMI 1/HDMI 2/HDMI 3/HDMI 4/Analog RCA 1/Analog RCA 2/OPTICAL/COAXIAL
初期値	現在選択している音声入力端子

■ 映像入力端子を選択する(映像選択)

現在の音声入力端子に組み合わせる映像入力端子を選択します。音声入力がHDMI以外の場合に表示されます。

オプションメニュー	「映像選択」
設定値	HDMI 1/HDMI 2/HDMI 3/HDMI 4/オフ
初期値	オフ

関連リンク

「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

FMラジオの受信方法(ステレオ/モノラル)を設定する

FMラジオの受信方法(ステレオ/モノラル)を選択します。FMラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル受信に切り替えると改善される場合があります。

オプションメニュー	「FM モード」
設定値	• ステレオ：FMラジオをステレオで受信する。 • モノラル：FMラジオをモノラルで受信する。
初期値	ステレオ

関連リンク

「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

ラジオ局を登録・登録解除する

■ FMラジオ局をプリセット番号に自動登録する

自動でFMラジオ局をプリセット番号に登録します。信号の強いFMラジオ局が自動でプリセット番号に登録されます。

オプションメニュー	「プリセット」＞「オートプリセット」
設定値	01～40(プリセット番号)
初期値	01

お知らせ

- 最大40局のラジオ局を登録できます。
- オートプリセットを途中で停止する場合は、BACKキーを押します。

■ プリセット番号に登録したラジオ局を解除する

プリセット番号に登録したラジオ局を登録解除します。

オプションメニュー	「プリセット」＞「クリアプリセット」
設定値	01～40(プリセット番号)
初期値	現在選択されているプリセット番号(プリセット番号)

関連リンク

- 「ラジオ局を登録・登録解除する」(67ページ)
- 「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

シャッフル/リピート再生を設定する

USB機器に保存されている音楽ファイルなどをシャッフル/リピート再生します。

■ シャッフル再生する

オプションメニュー	「シャッフル」
設定値	• オン：シャッフル再生を有効にする。 • オフ：シャッフル再生を無効にする。
初期値	オフ

■ リピート再生する

オプションメニュー	「リピート」
設定値	• オフ：リピート再生を無効にする。 • 1曲：1曲をリピート再生する。 • すべて：全曲をリピート再生する。
初期値	オフ

関連リンク

- 「USB機器の曲を再生する」(71ページ)
- 「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

インターネットラジオ・Podcastsのラジオ局を自動再生する

インターネットラジオ・Podcastsのラジオ局を自動再生するか設定します。

オプションメニュー	「自動再生」
設定値	• オフ：自動再生を無効にする。 • オン：自動再生を有効にする。
初期値	オン

お知らせ

有効にすると、最後に再生していたインターネットラジオ・Podcastsのラジオ局を自動で再生します。

関連リンク

- 「インターネットラジオを聴く」(75ページ)
- 「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

Bluetooth®機器を本製品に登録する

Bluetooth機器を本製品に登録します。

オプションメニュー	「ペアリング」

1. **キーを押して、入力を「Bluetooth」に切り替える。**
2. **(オプションメニュー)キーを押し、メニューから「ペアリング」を選んでENTERキーを押す。**
   リモコンのキーを長押ししても、Bluetooth機器を本製品に登録できます。
3. **Bluetooth機器で本製品(本製品のネットワーク名称)を選ぶ。**

関連リンク

- 「Bluetooth®機器の音声を再生する」(69ページ)
- 「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

Bluetooth®入力を自動選択する

この設定を有効にすると、他の入力を選択していても、ペアリングしたBluetooth機器の電源が入ると、自動で入力を「Bluetooth」に切り替えます。

オプションメニュー	「入力連動」
設定値	• オフ：自動で入力をBluetoothにしない。 • オン：自動で入力をBluetoothにする。
初期値	オン

関連リンク

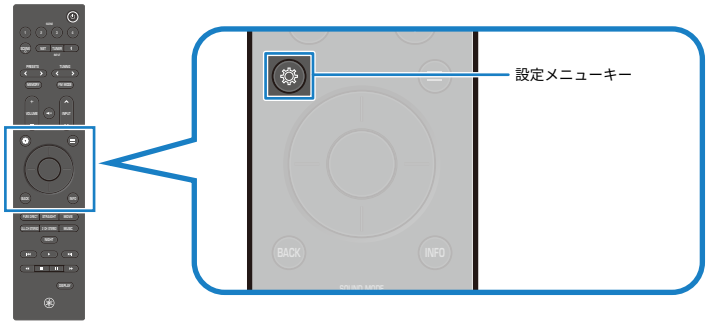
- 「Bluetooth®機器の音声を再生する」(69ページ)
- 「オプションメニューの基本操作」(100ページ)

機能設定をする(設定メニュー)

設定メニューの基本操作

設定メニューの基本的な操作方法を説明します。このメニューはテレビ画面を見ながらリモコンで操作します。

1 **リモコンの⚙(設定メニュー)キーを押す。**



テレビに設定メニュー画面が表示されます。表示されない場合は、テレビ側の入力を切り替えてください。

2 **メニューを選ぶ。**



3 **設定項目を選ぶ。**

4 **設定を変更する。**

5 **⚙(設定メニュー)キーを押す。**

設定メニュー画面が閉じます。

これで設定は完了です。

関連リンク

「設定メニュー一覧」(115ページ)

設定メニュー一覧

設定メニューの一覧です。詳細は、ページ欄のリンク先をご覧ください。

■ セットアップガイド(119ページ)

■ スピーカー設定

項目		ページ
構成	パワーアンプ割り当て	120
	サブウーファー	
	フロント	
	センター	
	サラウンド	
	サラウンドバック	
	ハイト	
	配置	
	サブウーファー位相	
	エクストラベース	
距離	単位	
	フロント左	
	フロント右	
	センター	
	サラウンド左	
	サラウンド右	
	サラウンドバック左	
	サラウンドバック右	
	ハイト左	
	ハイト右	
	サブウーファー	
音量	フロント左	
	フロント右	
	センター	

項目		ページ
音量	サラウンド左	120
	サラウンド右	
	サラウンドバック左	
	サラウンドバック右	
	ハイト左	
	ハイト右	
	サブウーファー	
イコライザー	イコライザー選択	
	GEQ編集(表示だけで、設定できません)	
	チャンネル	
	32Hz	
	63Hz	
	125Hz	
	250Hz	
	500Hz	
	1kHz	
	2kHz	
	4kHz	
	8kHz	
	16kHz	
テストトーン	フロント左	
	フロント右	
	センター	
	サラウンド左	
	サラウンド右	
	サラウンドバック左	
	サラウンドバック右	
	ハイト左	
	ハイト右	
	サブウーファー	
	オフ	
ルームコレクション		

■ HDMI設定

項目		ページ
HDMIコントロール		125
音声出力		
パススルー		
映像フォーマット		
HDCP バージョン	HDMI 1/HDMI 2/HDMI 3/HDMI 4	
スタンバイ連動		
ARC		

■ 音声設定

項目		ページ
リップシンク	自動/手動選択	129
	調整	
ダイアローグ	セリフ音量調整	
	DTSダイアローグコントロール	
音量	音量表示	
	ダイナミックレンジ	
	音量の上限	
	音量の初期値	
	ゾーンB 音量連動	
スピーカーバーチャル		

■ シーン

項目	ページ
シーン設定	133
シーン名変更	

■ ファンクション設定

項目	ページ
入力名変更	134
入力スキップ	

項目		ページ
TV音声入力		134
ディマー		
スリープ		
設定保護		
自動スタンバイ	タイマー	
ファームウェア	バージョン	
	USBアップデート	
	ネットワークアップデート	
工場出荷設定	全設定の初期化	
	ネットワーク設定の初期化	

■ ネットワーク設定

項目		ページ
ネットワーク情報		138
無線接続	アプリで接続	
	ネットワーク検索	
	WAC(iOS)	
	マニュアル設定	
IPアドレス	DHCP	
ネットワークスタンバイ		
ネットワーク名		

■ Bluetooth設定

項目		ページ
Bluetooth設定		141
Bluetoothスタンバイ		

■ 言語設定(142ページ)

初期設定をする

セットアップガイドをテレビ画面に表示して初期設定をします。

初めて本製品の電源を入れたときにも表示されます。

設定内容は以下のとおりです。

- 言語設定
- ルームコレクションを使ったスピーカー設定

設定メニュー	「セットアップガイド」

お知らせ

- 言語設定は、設定メニューの「言語設定」からも設定できます。
- スピーカー設定(ルームコレクション)は、設定メニューの「スピーカー設定」＞「ルームコレクション」からも設定できます。

関連リンク

- 「セットアップガイドを使って初期設定をする」(53ページ)
- 「設定メニューの基本操作」(113ページ)

スピーカーの設定をする

■ スピーカーシステムの構成を設定する

スピーカーシステムに合わせてスピーカーの設定をします。

パワーアンプ割り当て

HEIGHT端子から出力する信号を設定します。

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「構成」＞「パワーアンプ割り当て」
設定値	• ハイト：ハイト信号を出力する。 • サラウンドバック：サラウンドバック信号を出力する。 • バイアンプ：バイアンプ信号(フロントと同じ)を出力する。 フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合に使用します。 • ゾーンB：ゾーンBの信号を出力する。 メインゾーンのスピーカーシステムに加えて、ゾーンBスピーカーを使う場合に使用します。
初期値	ハイト

サブウーファー

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「構成」＞「サブウーファー」
設定値	• 使用する：サブウーファーを接続している場合。 LFE(低域効果音)チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。 • 使用しない：サブウーファーを接続しない場合。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。
初期値	使用する

各スピーカー

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「構成」＞各スピーカー

設定値	• クロスオーバー：40～80～200 Hz(5 Hz単位) 選択したスピーカーが出力できる低音域の周波数を設定します。設定値よりも低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。 • フルレンジ：全帯域をスピーカーから出力する。 • 使用しない*：スピーカーを接続しない。
初期値	クロスオーバー 80 Hz

* フロントスピーカーでは選択できません。

配置

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「構成」＞「配置」
設定値	• フロントハイト：ハイトスピーカーが前方の壁に設置されている場合。 • トップ：ハイトスピーカーが天井に設置されている場合。 • ドルビーイネーブルドスピーカー：ハイトスピーカーとしてドルビーイネーブルドスピーカー(Dolby Enabled Speaker)を使用する場合。 • ---：ハイトスピーカーを使用しない場合。
初期値	トップ

サブウーファーの位相

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「構成」＞「サブウーファー位相」
設定値	• 正相：サブウーファーの位相を反転しない。 • 逆相：サブウーファーの位相を反転する。
初期値	正相

エクストラベース

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「構成」＞「エクストラベース」
設定値	• オフ：エクストラベースを無効にする。 • オン：エクストラベースを有効にする。
初期値	オフ

■ スピーカーの距離を個別に設定する

単位

設定メニュー	「スピーカー設定」>「距離」>「単位」
設定値	メートル/フィート
初期値	メートル

各スピーカー

設定メニュー	「スピーカー設定」>「距離」>各スピーカー
設定値	• 「単位」で「メートル」を選択した場合 0.3 m ～ 3.0 m ～ 24.0 m(0.05 m単位) • 「単位」で「フィート」を選択した場合 1.0 ft ～ 10.0 ft ～ 80.0 ft(0.2 ft単位)
初期値	• 「単位」で「メートル」を選択した場合 3.0 m • 「単位」で「フィート」を選択した場合 10.0 ft

■ スピーカーの音量を個別に調整する

設定メニュー	「スピーカー設定」>「音量」>各スピーカー
設定値	-10.0 dB～0.0 dB～+10.0 dB(0.5 dB単位)
初期値	0.0 dB

■ イコライザーを設定する

イコライザー選択

設定メニュー	「スピーカー設定」>「イコライザー」>「イコライザー選択」
設定値	• 自動EQ：ルームコレクションで得たイコライザーの値を適用する。 • GEQ：イコライザーを手動で調節する。 • オフ：イコライザーを使用しない。

初期値	GEQ

お知らせ

設定値「自動EQ」はルームコレクションで自動測定を行った場合のみ選択できます。

イコライザー手動調整

「イコライザー選択」で「GEQ」を選択した場合のみ、設定できます。

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「イコライザー」＞「チャンネル」
設定値	各スピーカー

スピーカーを選択したあと、周波数を選び、レベルの強さを調節してください。

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「イコライザー」＞各周波数
設定値	–6.0 dB～0.0 dB～+6.0 dB(0.5 dB単位)
初期値	0.0 dB

■ テストトーンを出力する

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「テストトーン」＞各スピーカー/オフ
設定値	• 各スピーカー：選択したスピーカーからテストトーンを出力する。 • オフ：テストトーンを出力しない。

■ 音量バランスや音色など自動で調整する(ルームコレクション)

付属のセットアップマイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置(測定位置)との距離、レベル、周波数、位相などを検出します。それにより、音量バランスや音色など自動で調整できます。

テレビ画面の案内にしたがって、設定してください。

設定メニュー	「スピーカー設定」＞「ルームコレクション」

関連リンク

- 「おすすめのスピーカー配置(基本編)」(29ページ)
- 「ゾーン接続する(応用編)」(38ページ)
- 「バイアンプ接続する(応用編)」(40ページ)
- 「スピーカーとスピーカーケーブルの準備」(42ページ)
- 「セットアップガイドを使って初期設定をする」(53ページ)
- 「設定メニューの基本操作」(113ページ)

HDMIの設定をする

■ HDMIコントロールを設定する

設定メニュー	「HDMI設定」＞「HDMIコントロール」
設定値	• オフ：HDMIコントロールを無効にする。 • オン：HDMIコントロールを有効にする。 「オン」に設定すると、TVやHDMI入力機器との連動動作ができます。 「スタンバイ連動」「ARC」の設定が適用されます。「オフ」設定時よりも電力を消費します。
初期値	オン

お知らせ

HDMIコントロール対応のテレビやAV機器を本製品に接続後、連動設定が必要です。

■ HDMIの音声をテレビのスピーカーから出力するか設定する

設定メニュー	「HDMI設定」＞「音声出力」
設定値	• オフ：テレビから出力しない。 • オン：テレビから出力する。
初期値	オフ

お知らせ

設定メニューの「HDMIコントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

■ HDMIパススルーを設定する

本製品がスタンバイ時に、HDMI端子へ入力された音声/映像をテレビに出力するか設定します。

設定メニュー	「HDMI設定」＞「パススルー」
設定値	• オフ：テレビに出力しない。 • オン：テレビに出力する。HDMIパススルーモードになり、「オフ」「自動」設定時よりも電力を消費します。 • 自動：接続している機器の状態により、出力するか自動的に設定する。
初期値	自動

お知らせ

設定メニューの「HDMIコントロール」が「オン」の場合は、「オン」と「自動」のみ選択できます。

■ HDMI 4K/8K信号のフォーマットを設定する

設定メニュー	「HDMI設定」＞「映像フォーマット」
設定値	• 4Kモード1：次表に記載の4K信号を入出力する。 • 4Kモード2：次表に記載の4K信号を入出力する。 • 8Kモード：次表に記載の4K/8K信号を入出力する。
初期値	4Kモード1

フォーマット

		4Kモード1			4Kモード2			8Kモード		
		8-bit	10-bit	12-bit	8-bit	10-bit	12-bit	8-bit	10-bit	12-bit
8K/60, 50 Hz	RGB 4:4:4	–			–			●		
	YCbCr 4:4:4	–			–			●		
	YCbCr 4:2:2	–			–			●		
	YCbCr 4:2:0	–			–			○		●
8K/30, 25, 24 Hz	RGB 4:4:4	–			–			○		●
	YCbCr 4:4:4	–			–			○		●
	YCbCr 4:2:2	–			–			○		
	YCbCr 4:2:0	–			–			○		
4K/120, 100 Hz	RGB 4:4:4	–			–			○		●
	YCbCr 4:4:4	–			–			○		●
	YCbCr 4:2:2	–			–			○		
	YCbCr 4:2:0	○	–		–			○		
4K/60, 50 Hz	RGB 4:4:4	○	–		–			○		
	YCbCr 4:4:4	○	–		–			○		
	YCbCr 4:2:2	○			–			○		
	YCbCr 4:2:0	○			○	–		○		
4K/30, 25, 24 Hz	RGB 4:4:4	○			○	–		○		
	YCbCr 4:4:4	○			○	–		○		
	YCbCr 4:2:2	○			○			○		

* ○印は対応するフォーマットです。
* ●印はDSC(Display Stream Compression)のみ対応するフォーマットです。DSCはVESAで規格化された映像信号圧縮技術です。

お知らせ

- 接続機器やHDMIケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、設定を変更してください。
- 「8Kモード」に設定した場合は、ウルトラハイスピードHDMIケーブルまたはイーサネット対応ウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- 「4Kモード1」に設定した場合は、プレミアムハイスピードHDMIケーブルまたはイーサネット対応プレミアムハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。

■ HDMI入力端子のHDCPバージョンを設定する

HDMI入力端子のHDCPバージョンを設定します。4K/8K映像の視聴時、HDCP 1.4までに対応したテレビをお使いの場合は、「1.4」に切り替えてください。HDMI入力端子ごとに設定できます。

設定メニュー	「HDMI設定」＞「HDCP バージョン」＞「HDMI 1」～「HDMI 4」
設定値	• 自動：コンテンツに応じてHDCPのバージョンを自動設定する。 • 1.4：HDCPをバージョン1.4に固定する。
初期値	自動

■ 本製品とテレビのスタンバイ連動を設定する

テレビと本製品の電源スタンバイを連動させるかを設定します。

設定メニュー	「HDMI設定」＞「スタンバイ連動」
設定値	• 自動：本製品がテレビ音声入力中またはHDMI信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本製品もスタンバイにする。 • オフ：電源スタンバイを連動させない。 • オン：テレビの電源スタンバイに連動して本製品もスタンバイにする。
初期値	自動

お知らせ

設定メニューの「HDMIコントロール」が「オン」の場合に適用されます。

■ ARCを設定する

テレビの音声をHDMIケーブル経由で再生できます。その他の接続方法でテレビの音声を聞く場合は、設定メニューの「ファンクション設定」＞「TV音声入力」で設定してください。

設定メニュー	「HDMI設定」＞「ARC」
設定値	• オン：ARCを有効にする。 • オフ：ARCを無効にする。
初期値	オン

お知らせ

- 設定メニューの「HDMIコントロール」が「オン」の場合に適用されます。
- eARC機能を使用する場合は、「ARC」の設定は不要です。対応しているテレビであれば、自動認識して接続されます。

関連リンク

- 「テレビの音声を聴く」(65ページ)
- 「設定メニューの基本操作」(113ページ)

音声の設定をする

■ リップシンクを設定する

映像と音声の出力タイミングのずれの補正(リップシンク)を設定します。

リップシンクの調整方法を設定する

設定メニュー	「音声設定」＞「リップシンク」＞「自動/手動選択」
設定値	• 手動補正：映像と音声のずれを手動で調整する。 「調整」で入力した値が補正値として適用されます。 • 自動補正：テレビで設定されたリップシンクの値を適用する。 対応しているテレビをHDMI接続している場合のみ選択できます。 「調整」で補正時間を微調整できます。

リップシンクの補正値を調整する

設定メニュー	「音声設定」＞「リップシンク」＞「調整」＞「リップシンク」
設定値	0 ms～500 ms
初期値	0 ms

お知らせ

オプションメニューの「リップシンク」で、入力ごとに「オン」/「オフ」を設定できます。

■ セリフの音量を調整する

セリフが聴こえにくい場合に、セリフの音量を調整します。値が大きいほどセリフを強調します。

設定メニュー	「音声設定」＞「ダイアローグ」＞「セリフ音量調整」
設定値	0/1/2/3
初期値	0

DTS:X再生時にセリフの音量を調整する

DTS:Xコンテンツの再生でセリフが聴こえにくい場合に、セリフの音量を調整します。値が大きいほどセリフを強調します。

設定メニュー	「音声設定」＞「ダイアローグ」＞「DTSダイアローグコントロール」
設定値	0/1/2/3/4/5/6
初期値	0

お知らせ

- セリフ音量の調整に対応しているDTS:Xコンテンツのみに有効です。
- DTS:X信号が入力されていない場合は、調整できません。

■ 音量の設定をする

音量表示を設定する

設定メニュー	「音声設定」＞「音量」＞「音量表示」
設定値	• dB：dB(デシベル)単位で表示する。 • 0-97：数値(0～97)で表示する。
初期値	0-97

ダイナミックレンジの調節方法を設定する

Dolby DigitalやDTS信号再生時のダイナミックレンジ(最大音量と最小音量の差)の調節方法を設定します。

設定メニュー	「音声設定」＞「音量」＞「ダイナミックレンジ」
設定値	• 最大：入力信号を補正せずに再生する。 • 標準：家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。 • 最小/自動：夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。 Dolby TrueHD再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

音量の上限を設定する

リモコンのVOLUMEキーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定メニュー	「音声設定」＞「音量」＞「音量の上限」
設定値	–60.0 dB～+15.0 dB、+16.5 dB(50.0～97)
初期値	+16.5 dB(97)

電源を入れたときの音量を設定する

電源を入れたときの音量を固定するかどうかを選択します。

設定メニュー	「音声設定」>「音量」>「音量の初期値」
設定値	• オフ：前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。 • ミュート：消音を適用する。 • -80 dB〜+16.5 dB(0.5〜97)：指定した音量を適用する。「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効です。
初期値	オフ

メインゾーンとゾーンBの音量を連動させる

メインゾーンの音量と連動してゾーンBの音量を調節するか設定します。

設定メニュー	「音声設定」>「音量」>「ゾーンB 音量連動」
設定値	• 同期：メインゾーンの音量と連動してゾーンBの音量を調節する。 • 非同期：メインゾーンとゾーンBの音量を連動しない。
初期値	同期

■ スピーカーバーチャルを設定する

サウンドモードが「MOVIE」、「MUSIC」、「NIGHT」、「STRAIGHT」の場合に、スピーカーバーチャルを使用するか設定します。

スピーカーバーチャルを有効にすると、接続されていないスピーカーに音声信号が入力された場合にバーチャル処理し、接続されているスピーカーから出力します。

設定メニュー	「音声設定」>「スピーカーバーチャル」
設定値	• オン：スピーカーバーチャルを有効にする。 • オフ：スピーカーバーチャルを無効にする。 接続されていないスピーカーに音声信号が入力された場合はダウンミックスし、接続されているスピーカーから出力します。
初期値	オン

DTS Virtual:Xで再生するには

「スピーカーバーチャル」を「オン」にすると、DTS信号入力時のみDTS Virtual:Xで音声を再生できます。
DTS Virtual:Xで音声を再生したい場合は、「スピーカー設定」>「構成」>「パワーアンプ割り当て」で「ハイト」および「サラウンドバック」を設定せずに、5.x/4.x/ 3.x/2.xチャンネルの設定をしてください。

関連リンク

- 「リップシンク補正を有効/無効にする」(105ページ)
- 「ゾーンを操作する」(96ページ)
- 「設定メニューの基本操作」(113ページ)

シーンの設定をする

■ シーン機能で呼び出す項目を設定する

設定メニュー	「シーン」＞「シーン設定」＞各シーン名

お知らせ

本設定について詳しくは、「シーンを呼び出す・登録する」(89ページ)をご覧ください。

■ シーン名を変更する

設定メニュー	「シーン」＞「シーン名変更」＞各シーン名

お知らせ

本設定について詳しくは、「シーンを呼び出す・登録する」(89ページ)をご覧ください。

関連リンク

「設定メニューの基本操作」(113ページ)

詳細機能の設定をする(ファンクション設定)

■ 入力名を自動または手動で設定する

入力名を変更します。

HDMIの場合のみ入力名の自動設定が可能で、入力機器に設定されている情報が自動で入力されます。

設定メニュー　「ファンクション設定」＞「入力名変更」＞各入力

1　名称を変更する入力を選ぶ。

2　「手動補正」または「自動」(HDMI入力のみ)を選び、ENTERキーを押す。

3　「手動補正」を選択した場合は、名称を編集し「確定」を選ぶ。



4　別の入力の名称を変更するには、手順1～2(手動の場合は1～3)を繰り返す。

これで設定は完了です。

お知らせ

- 外部機器の接続を外しても入力名は保持されます。「自動」で設定した入力を初期値に戻すには、該当する入力端子に何も接続していない状態で、一度「手動補正」にしてから「自動」に戻してください。
- 「手動補正」で入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選択します。
- 「リセット」を選択すると、入力名の初期値で上書きされます。

■ 入力スキップを設定する

INPUTキーまたはフロントパネルのINPUTノブを操作したときにスキップする入力を設定します。使用しない入力をスキップすることで、目的の入力を素早く選べます。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「入力スキップ」＞各入力
設定値	• オフ：スキップ設定しない。 • オン：スキップ設定する。
初期値	オフ

■ テレビからの音声を入力する端子を設定する

入力を「TV」にしたときに再生する音声入力端子を選択します。本設定は、eARC機能が無効、またはARC設定が「オフ」のときのみ有効になります。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「TV音声入力」＞「TV音声入力」
設定値	OPTICAL/COAXIAL/Analog RCA 1/Analog RCA 2
初期値	OPTICAL

お知らせ

- ARC機能を使用してHDMIケーブルで入力する場合は、設定メニューの「HDMIコントロール」を「オン」、「ARC」を「オン」に設定してください。
- eARC機能を使用する場合は、「ARC」の設定は不要です。対応しているテレビであれば、自動認識して接続されます。
- テレビ側の設定が必要な場合があります。テレビの取扱説明書もご参照ください。

■ フロントディスプレイの明るさを設定する(ディマー)

フロントディスプレイの明るさを調節します。値が0に近いほど明るくなります。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「ディマー」＞「ディマー」
設定値	-4～0
初期値	0

■ スリープタイマーを設定する

指定した時間が経過すると、本製品がスタンバイになります。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「スリープ」＞「スリープ」
設定値	120分/90分/60分/30分/オフ
初期値	オフ

お知らせ

本機能について詳しくは、「スリープタイマー機能」(87ページ)もご覧ください。

■ 設定を保護する

本製品の設定を保護して、変更できないようにします。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「設定保護」＞「設定保護」
設定値	• オフ：保護設定しない。 • オン：保護設定する。
初期値	オフ

■ 自動スタンバイまでの時間を設定する

本製品の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「自動スタンバイ」＞「タイマー」
設定値	• オフ：自動的にスタンバイにしない。 「オフ」以外に設定したときより、電力を消費します。 • 5分/20分：本製品を指定時間操作しなかったとき、かつ、本製品が指定時間入力信号を検知しなかったときに、スタンバイにする。 • 2時間/4時間/8時間/12時間：本製品を指定時間操作しなかったときに、スタンバイにする。
初期値	20分

お知らせ

- スタンバイになる直前、フロントディスプレイに、スタンバイに切り替わるまでの秒数が「auto standby xxs」(xxは秒数)と表示されます。
- 自動スタンバイまでの時間が「5分/20分」に設定されていて、Analog RCA 1/Analog RCA 2入力を使用している場合は、製品が常に動作状態になるため「自動スタンバイ」機能は有効になりません。

■ ファームウェアのバージョンを確認する

現在のファームウェアバージョンを確認できます。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「ファームウェア」＞「バージョン」

■ ファームウェアの更新方法を選択する

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「ファームウェア」＞「USBアップデート」/「ネットワークアップデート」

お知らせ

- 更新の操作については、「ファームウェアの更新について」(144ページ)をご覧ください。
- ファームウェア更新の準備が整うまで、「ネットワークアップデート」は選択できません。
- ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前には、更新時に提供される情報を必ずご確認ください。
- ファームウェア更新の所要時間は、ネットワークアップデートの場合、約20分です。
- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、接続状態によってはネットワーク経由でのファームウェアの更新に失敗することがあります。そのような場合は、時間をおいてアップデートをお試しいただくか、USBメモリーを使ってファームウェアを更新してください。

■ 設定を初期化する

本製品の各種設定をリセット(初期化)します。

設定メニュー	「ファンクション設定」＞「工場出荷設定」
設定値	• 全設定の初期化：すべての設定を初期化する。 • ネットワーク設定の初期化：ネットワーク設定のみ初期化する。

お知らせ

操作について詳しくは、「設定を初期化する」(143ページ)もご覧ください。

関連リンク

- 「HDMIの設定をする」(125ページ)
- 「ファームウェアの更新について」(144ページ)
- 「設定を初期化する」(143ページ)
- 「設定メニューの基本操作」(113ページ)

ネットワークの設定をする

■ ネットワーク情報を確認する

本製品のネットワーク情報を表示します。

設定メニュー	「ネットワーク設定」＞「ネットワーク情報」
表示項目	• ステータス：ネットワーク端子の接続状態 • 接続方法：ネットワークへの接続方法 • SSID(無線接続時のみ)：本製品が接続しているアクセスポイント • MACアドレス [イーサネット]：有線接続時の本製品のMACアドレス • MACアドレス [Wi-Fi]：無線接続時の本製品のMACアドレス • IPアドレス：本製品のIPアドレス • サブネットマスク：サブネットマスク • デフォルトゲートウェイ：デフォルトゲートウェイのIPアドレス • DNSサーバー(P)：プライマリーDNSサーバーのIPアドレス • DNSサーバー(S)：セカンダリーDNSサーバーのIPアドレス

■ ネットワークへの無線接続設定をする

設定メニュー	「ネットワーク設定」＞「無線接続」＞「アプリで接続」/「ネットワーク検索」/「WAC(iOS)」/「マニュアル設定」

お知らせ

- 「無線接続」の項目は、ネットワークに有線接続しているときは設定できません。
- 本設定について詳しくは、「ネットワークへの無線接続方法を選ぶ」(198ページ)をご覧ください。

■ ネットワーク情報を自動設定する(DHCP機能)

本製品のネットワーク情報(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど)を、DHCPサーバーを使用して自動で設定します。

設定メニュー	「ネットワーク設定」＞「IPアドレス」＞「DHCP」
設定値	• オフ：DHCPサーバーを使用しない。ネットワーク情報を手動で設定します。 • オン：DHCPサーバーを使用する。ネットワーク情報を自動で設定します。
初期値	オン

■ ネットワーク情報を手動設定する

本製品のネットワーク情報(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど)を手動で設定します。

設定メニュー	「ネットワーク設定」＞「IPアドレス」

1. **「DHCP」で「オフ」を選ぶ。**
2. **設定したい項目を選ぶ。**
3. **ネットワーク情報を設定する。**
4. **ENTERキーを押す。**
5. **別の項目を設定するには、手順2〜4を繰り返す。**
6. **⚙(設定メニュー)キーを押す。**

これで設定は完了です。

■ ネットワークスタンバイを設定する

ネットワーク機器から本製品の電源を入れるか設定します。

設定メニュー	「ネットワーク設定」＞「ネットワークスタンバイ」
設定値	• オフ：ネットワークスタンバイを無効にする。 • オン：ネットワークスタンバイを有効にする。「オフ」よりも電力を消費します。 • 自動：ネットワークスタンバイを有効にする。 ネットワークケーブルを切断するとパワーセーブモードになり、電力の消費を抑えられます。
初期値	自動

お知らせ

パワーセーブモードになると、ネットワークケーブルを接続してもネットワーク機器から電源を入れられません。リモコンまたは本体キーで本製品の電源を入れてください。

■ 本製品のネットワーク名を設定する

ネットワークに表示される本製品の名称(ネットワーク名)を設定します。

設定メニュー	「ネットワーク設定」＞「ネットワーク名」

1 **ENTERキーを押す。**

2 **名称を編集し「確定」を選ぶ。**

3 **⚙(設定メニュー)キーを押す。**

これで設定は完了です。

お知らせ

- 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選択します。
- 「リセット」を選択すると、ネットワーク名の初期値で上書きされます。

関連リンク

- 「ネットワーク接続の準備をする」(49ページ)
- 「ネットワークへの無線接続方法を選ぶ」(198ページ)
- 「Bluetooth®の設定をする」(141ページ)
- 「設定メニューの基本操作」(113ページ)

Bluetooth®の設定をする

■ Bluetoothを設定する

Bluetooth機能を使用するか設定します。

設定メニュー	「Bluetooth設定」＞「Bluetooth設定」
設定値	• オフ：Bluetooth機能を無効にする。 • オン：Bluetooth機能を有効にする。
初期値	オン

■ Bluetoothスタンバイを設定する

Bluetooth機器から本製品の電源操作をするか設定します。「オン」にすると、Bluetooth機器で接続操作が行われたときに、自動的に本製品の電源が入ります。

設定メニュー	「Bluetooth設定」＞「Bluetoothスタンバイ」
設定値	• オフ：Bluetoothスタンバイ機能を無効にする。 • オン：Bluetoothスタンバイ機能を有効にする。「オフ」設定時よりも電力を消費します。
初期値	オン

関連リンク

- 「Bluetooth®機器の音声を再生する」(69ページ)
- 「設定メニューの基本操作」(113ページ)

メニュー言語設定をする

設定メニューなどの表示言語を設定します。

設定メニュー	「言語設定」
設定値	• English • 日本語 • Français • Deutsch • Español • Italiano • 中文

お知らせ

ショートメッセージやフロントディスプレイの表示言語は変更されません。

関連リンク

「設定メニューの基本操作」(113ページ)

設定を初期化する

本製品の各種設定をリセット(初期化)します。

以下の手順で設定を初期化してください。

1. **(設定メニュー)キーを押す。**
2. **設定メニューから「ファンクション設定」>「工場出荷設定」>「全設定の初期化」または「ネットワーク設定の初期化」を選ぶ。**
   「全設定の初期化」：すべての設定を初期化します。
   「ネットワーク設定の初期化」：ネットワーク設定のみ初期化します。
3. **「実行」を選択する。**
   初期化が終わると自動的に本製品の電源がオフになります。
   「ネットワーク設定の初期化」を選んだ場合は、電源がオフにならず、完了のメッセージが表示されます。

これで設定の初期化は完了です。

お知らせ

「全設定の初期化」を実行すると、次に本製品の電源をオンにしたときにセットアップガイドが自動的に開始されます。

関連リンク

- 「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)
- 「セットアップガイドを使って初期設定をする」(53ページ)

ファームウェアの更新

ファームウェアの更新について

機能の追加や不具合の改善に応じて、新しいファームウェアが提供されます。ファームウェアに関する詳細は、弊社ウェブサイト「https://www.yamaha.com/」 をご覧ください。

ファームウェアは、インターネット経由かUSBメモリーを使って更新できます。

関連リンク

- 「ネットワーク経由でファームウェアを更新する」(145ページ)
- 「USBメモリーを使ってファームウェアを更新する」(146ページ)

ファームウェアを更新する

ネットワーク経由でファームウェアを更新する

本製品がインターネットに接続されている場合は、新しいファームウェアの更新準備が整うと、午前2:00に自動的にファームウェアが更新されます。

ご注意

- ファームウェア更新中は、本製品を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。万一、中断したときは本製品が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

お知らせ

- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、ファームウェア更新の通知が来ない場合があります。そのような場合は、USBメモリーを使ってファームウェアを更新してください。
- ネットワーク経由のファームウェア更新は設定メニューの「ファンクション設定」＞「ファームウェア」＞「ネットワークアップデート」からも行えます。

関連リンク

「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)

USBメモリーを使ってファームウェアを更新する

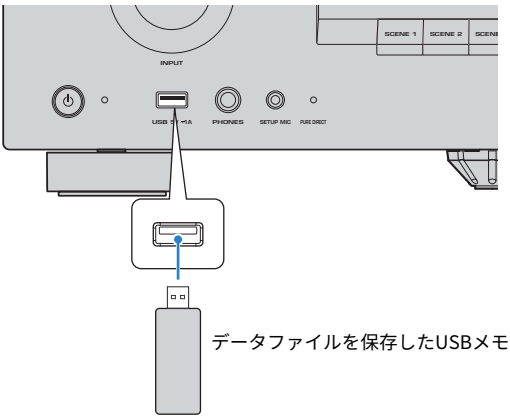
USBメモリーを使って、ファームウェアを更新します。

1 ヤマハのウェブサイトから本製品の最新ファームウェアをパソコンにダウンロードする。
詳しくは、ヤマハのウェブサイト「https://www.yamaha.com/」の製品の情報ページをご覧ください。

2 ダウンロードした圧縮ファイルを展開し、ファームウェアのデータファイルをUSBメモリーに保存する。

3 フロントパネルのUSB端子にUSBメモリーを接続する。

本製品(前面)



4 設定メニューの「ファンクション設定」＞「ファームウェア」＞「USBアップデート」を選択する。

5 「実行」を選択する。
ファームウェアの更新が開始されます。更新中は絶対に電源を切らないでください。
ファームウェアの更新が終わると、自動的に本製品の電源がオフになります。

6 本製品の電源がオフになったことを確認して、USBメモリーを取り外す。

これでファームウェアの更新は完了です。

ご注意

- ファームウェア更新中は、本製品を操作したり電源コードを抜いたりしないでください。万一、中断したときは本製品が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

関連リンク

「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)

困ったときは

最初にご確認ください

ご使用中に本製品が正常に動作しなくなった場合は、最初に次の項目をご確認ください。

- 本製品、テレビ、AV機器(BD/DVDプレーヤーなど)の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- 本製品、サブウーファー、テレビ、AV機器(BD/DVDプレーヤーなど)の電源が入っている。
- 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源/システム/リモコンのトラブル

電源が入らない

● 保護回路が3回続けて作動した。

電源を入れようとすると、フロントパネルのスタンバイ表示が点滅する場合は、製品保護のために電源が入らなくなっています。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。

テレビと連動して電源が入らない

● 本製品のHDMIコントロールの設定が「オフ」になっている。

電源の入/切いずれも連動しない場合は、設定メニューの「HDMIコントロール」が「オン」になっているか確認してください。詳しくは次をご覧ください。

・「HDMIの設定をする」(125ページ)

● テレビのHDMIコントロールの設定が「オフ」になっている。

電源の入のみが連動しない場合は、テレビ側のHDMIコントロールの設定が正しくない、またはテレビがHDMIコントロールに対応していない可能性があります。テレビの取扱説明書をご覧になり、HDMIコントロール機能を設定してください。

● 停電などにより連動しなくなった。

HDMIケーブルと電源ケーブルを抜いて5分ほど放電し、再生機、本製品、テレビの順でケーブルを接続しなおしください。

電源が切れない

● **外部電気ショック(落雷、過度の静電気など)や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。**

本体の⏻(電源)キーを15秒以上押して本製品を再起動してください。問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

電源がすぐに切れてしまう

● **スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れようとしている。**

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本製品とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。

・「スピーカーケーブルを接続する」(43ページ)

電源が自動的にスタンバイに切り替わる

● スリープタイマーが作動した。

もう一度電源を入れて、再生を始めてください。

● 操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。

自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

・「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)

● スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本製品とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。

・「スピーカーケーブルを接続する」(43ページ)

● 音量を上げすぎたため、保護回路が作動した。

音量を下げてください。

本製品が操作を受け付けない

● 外部電気ショック(落雷、過度の静電気など)や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

本体の⏻(電源)キーを10秒以上押して本製品を再起動してください。

問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

リモコンで本製品を操作できない

● 操作範囲から外れている。

操作範囲内で操作してください。詳しくは次をご覧ください。

・「リモコンの各部の名称と機能」(17ページ)

● 乾電池が消耗している。

新しい乾電池に交換してください。

● 本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。

照明または本体の向きを変えてください。

● リモコンの操作対象が別のゾーンになっている。

リモコンのゾーンスイッチを操作対象のゾーンに切り替えてください。詳しくは次をご覧ください。

・「リモコンの各部の名称と機能」(17ページ)

INPUTキーを押しても目的の入力を選択できない

● 入力をスキップする設定がされている。

設定メニューの「入力スキップ」で対象の入力を「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

・「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)

音声のトラブル

音が出ない

● 別の入力が選択されている。

INPUTキーで正しい入力を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

・「基本操作」(63ページ)

● 本製品で再生できない信号が入力されている。

一部のデジタル音声フォーマットは本製品で再生できません。本製品で再生可能な信号か確認してください。対応するファイルフォーマット、HDMIの音声フォーマット、対応デコードフォーマットについては、次をご覧ください。

・「主な仕様」(188ページ)

● ゾーンの電源が切になっている。

ゾーンスイッチを切り替えて、電源を入れてください。詳しくは次をご覧ください。

・「ゾーンを操作する」(96ページ)

● 本製品とAV機器を接続しているケーブルが破損している。

接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

● テレビが本製品に正しく接続されていない。

テレビによっては接続方法が異なる場合があります。テレビと本製品の接続を確認してください。詳しくは次をご覧ください。

・「テレビを接続する」(46ページ)

音量が上がらない

● 音量の上限値が低く設定されている。

設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください。詳しくは次をご覧ください。

・「音声の設定をする」(129ページ)

● 本製品の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。

該当機器すべての電源を入れてください。

特定のスピーカーから音が出ない

● 再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。

リモコンのINFOキーを押すと、入力信号のチャンネル数を確認できます。詳しくは次をご覧ください。

・「音声/映像信号情報を確認する」(64ページ)

● 該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。

設定メニューの「テストトーン」で、スピーカーから音声が出力されるか確認できます。詳しくは次をご覧ください。

・「スピーカーの設定をする」(120ページ)

● 該当スピーカーの音声出力が無効になっている。

ルームコレクションを実行するか、設定メニューの「構成」で該当スピーカーの有無を設定してください。詳しくは次をご覧ください。

・「スピーカーの設定をする」(120ページ)

● 該当スピーカーの音量が極端に小さい。

ルームコレクションを実行するか、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください。詳しくは次をご覧ください。

・「スピーカーの設定をする」(120ページ)

音源や設定しているサウンドモードによっては、自然な音場を作るためにサラウンドスピーカーなどから大きな音が出ない場合もあります。

● 本製品と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。

スピーカー側とアンプ側の各端子を確認のうえ、接続に問題なければ、ケーブルの断線が考えられます。別のケーブルに交換してください。

● 該当スピーカーが故障している。

正常に機能している別のスピーカーと交換すると確認できます。交換したスピーカーから音が出ない場合は、本製品が故障している可能性があります。

サブウーファーから音が出ない

● サブウーファーの電源が入っていない。

サブウーファーの電源を入れてください。

● 再生ソースにLFEや低音信号が含まれていない。

確認するには、設定メニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください。詳しくは次をご覧ください。

・「スピーカーの設定をする」(120ページ)

● サブウーファーの出力が無効になっている。

ルームコレクションを実行するか、設定メニューの「構成」＞「サブウーファー」を「使用する」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

・「スピーカーの設定をする」(120ページ)

● サブウーファーの音量が極端に小さい。

サブウーファーの音量を調節してください。

● サブウーファーのオートスタンバイ(自動的に電源を切る機能)が作動した。

サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。

HDMIで接続したAV機器の音が出ない

● **テレビが著作権保護(HDCP)に対応していない。**

テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。

● **HDMI OUT端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。**

使用していないHDMI機器を取り外してください。

● **HDMI音声出力が「オフ」の設定になっている。**

設定メニューの「HDMI設定」で、「音声出力」を「オン」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

・「HDMIの設定をする」(125ページ)

HDMIコントロール使用時に、AV機器の音声が本製品から出ない

- **テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。**
  テレビ音声が本製品から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
- **入力としてテレビの音声が選択されている。**
  INPUTキーで正しい入力を選んでください。

HDMIコントロール使用時に、テレビの音声が本製品から出ない

- **テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。**
  テレビ音声が本製品から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
- **eARC/ARCに対応していないテレビをHDMIケーブルのみで接続している。**
  テレビ音声を光デジタルケーブルで接続してください。詳しくは次をご覧ください。
  ・「テレビを接続する」(46ページ)
- **音声ケーブルで本製品とテレビを接続している場合に、「TV音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。**
  設定メニューの「TV音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください。詳しくは次をご覧ください。
  ・「詳細機能の設定をする(ファンクション設定)」(134ページ)
- **eARC/ARCを使ってテレビ音声を入力する場合に、本製品またはテレビのeARC/ARC機能が無効になっている。**
  設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください。
  また、テレビ側でeARC/ARC機能を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。
  ・「HDMIの設定をする」(125ページ)
- **eARC/ARCを使ってテレビ音声を入力する場合に、HDMIケーブルがテレビのeARC/ARC対応HDMI端子に接続されていない。**
  テレビのeARC/ARC対応HDMI端子に接続してください。テレビのHDMI端子がeARC/ARCに対応していない場合もあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

入力を「TV」にしたとき、他の機器の音声が聴こえる

● eARC/ARC機能を使用していない。

eARC/ARC機能を使用した音声再生中以外は、設定メニューの「TV音声入力」で設定した入力の音声が再生されます。故障ではありません。

マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない

● **サウンドモードとして「2 CH STEREO」を選択している。**

「2 CH STEREO」以外のサウンドモードを選択してください。詳しくは次をご覧ください。

「お好みのサウンドを選ぶ(サウンドモード)」(77ページ)

雑音が入る

● **デジタル機器や高周波機器が本製品の近くに置かれている。**
本製品と該当機器の距離を離してください。

● **本製品とAV機器を接続しているケーブルが破損している。**
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

音がひずむ

● **本製品の音声出力端子に接続されている外部アンプなどの機器の電源が切れている。**
該当機器すべての電源を入れてください。

● **音量が大きすぎる。**
音量を下げてください。

映像のトラブル

映像が出ない

- **本製品で別の入力が選択されている。**
  INPUTキーで入力(ビデオ機器)を選んでください。
- **テレビで別の入力が選択されている。**
  テレビ側の入力を本製品からの映像に切り替えてください。
- **テレビが非対応の映像信号を出力している。**
  AV機器の映像出力が適切に設定されているか確認してください。
- **本製品、テレビ、AV機器を接続しているケーブルが破損している。**
  接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

HDMIで接続したAV機器の映像が出ない

● 本製品が非対応の映像信号(解像度)を入力している。

入力中の映像信号(解像度)と、本製品が対応している映像信号については、次をご覧ください。

・「音声/映像信号情報を確認する」(64ページ)

・「主な仕様」(188ページ)

● テレビが著作権保護(HDCP)に対応していない。

テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。

● HDMI OUT端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。

使用していないHDMI機器を取り外してください。

● HDMI 4K/8K信号のフォーマット設定が正しくない。

8Kの映像を入出力するには、設定メニューの「映像フォーマット」で「8Kモード」を選択する必要があります。設定はご利用になる入力端子ごとに行ってください。

・「HDMIの設定をする」(125ページ)

● HDCP1.4/2.3対応機器が必要なコンテンツを再生しようとしているが、テレビ(HDMI入力端子)がHDCP1.4/2.3に対応していない。

HDCP1.4/2.3対応のテレビ(HDMI入力端子)に接続してください(テレビ画面に注意メッセージが表示される場合があります)。

設定メニューやオプションメニューがテレビに表示されない

● テレビで別の入力が選択されている。

テレビ側の入力を本製品(HDMI OUT端子)からの映像に切り替えてください。

● ピュアダイレクトが有効になっている。

「PURE DIRECT」以外のサウンドモードを選択してください。詳しくは次をご覧ください。

・「お好みのサウンドを選ぶ(サウンドモード)」(77ページ)

FMラジオのトラブル

FMラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

- **マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。**
  FMアンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
- **ラジオ局から離れた地域で受信している。**
  リモコンのFM MODEキーを押して、モノラル受信に切り替えてください。

FMラジオの自動選局ができない

● FMラジオ局から離れた地域で受信している。

手動で選局してください。詳しくは次をご覧ください。

・「ラジオを聴く」(66ページ)

また、市販の屋外アンテナを使用してください。

PRESETSキーを押してもラジオ局を選べない

● ラジオ局が登録されていない。

ラジオ局が1つも登録されていない場合は、PRESETSキーを押すとフロントディスプレイに「No Presets」と表示されます。ラジオ局をプリセット番号に登録してください。

また、FMラジオ局はオートプリセットもできます。ただし、信号が弱いと1局も登録されない場合があります。その場合は、手動で登録してください。

詳しくは次をご覧ください。

・「ラジオ局を登録・登録解除する」(67ページ)

ネットワークのトラブル

ネットワーク機能を使用できない

● ネットワーク情報(IPアドレス)が正しく取得されていない。

ルーターのDHCPサーバー機能を有効にしてください。また、本製品の設定メニューで「IPアドレス」＞「DHCP」を「オン」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

・「ネットワークの設定をする」(138ページ)

DHCPサーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本製品のIPアドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください。詳しくは次をご覧ください。

・「手動で無線接続する」(201ページ)

● IPv6タイプのルーターと接続している。

本製品のネットワーク機能の一部は、IPv6のネットワークには対応していません。IPv4のネットワークに接続してください。

無線LANルーター(アクセスポイント)経由でインターネットに接続できない

- **無線LANルーター(アクセスポイント)の電源が切れている。**
  無線LANルーター(アクセスポイント)の電源を入れてください。
- **本製品と無線LANルーター(アクセスポイント)の距離が離れすぎている。**
  本製品と無線LANルーター(アクセスポイント)を近づけてください。
- **本製品と無線LANルーター(アクセスポイント)の間に障害物がある。**
  本製品と無線LANルーター(アクセスポイント)の間の障害物を取り除いてください。
- **無線LANルーター(アクセスポイント)が14チャンネルを使用する設定になっている。**
  1〜13チャンネルのいずれかを使用するよう、無線LANルーターの設定を変更してください。

無線ネットワークが見つからない

- **電子レンジや別の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。**

  それらの機器の電源を切るか、本製品や無線LANルーターから遠ざけてください。また、無線LANルーターが5 GHz周波数帯に対応していれば、5 GHz周波数帯の接続に切り替えてください。

- **無線LANルーター(アクセスポイント)のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。**

  無線LANルーター(アクセスポイント)のファイアウォール設定をご確認ください。

インターネットラジオを再生できない

● インターネットに接続されていない。

インターネットラジオを使用するには、本製品がインターネットに接続されている必要があります。ネットワーク情報(IPアドレス)が正しく取得されていることを確認してください。詳しくは次をご覧ください。

・「ネットワークの設定をする」(138ページ)

● 選択したインターネットラジオ局のサービスが現在停止している。

ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。

● 選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。

時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できていても音はでません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。

● ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。

ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。

AirPlay使用時に、iPhoneで本製品が検出されない

● **マルチSSID対応ルーターを使用している。**

無線LANルーターのネットワーク分離機能により、本製品へのアクセスができなくなっている可能性があります。iPhoneを接続する際は、本製品へのアクセスが可能なSSIDをお使いください(プライマリーSSIDへの接続をお試しください)。

AirPlayで音楽を再生できない

● iPhoneで再生できない音楽を聴こうとしている。

iPhone自体で再生可能なファイルか確認してください。iPhone本体でも再生できない場合は、曲データや記憶領域が破損している可能性があります。

ネットワーク経由でファームウェアを更新できない

● ネットワークの接続状態がよくない。

しばらく経ってから再度実行するか、USBメモリーを使ってファームウェアを更新してください。詳しくは次をご覧ください。

・「ファームウェアを更新する」(145ページ)

USBのトラブル

USB機器が認識されない

- **USB機器がUSB端子に正しく接続されていない。**
  本製品の電源を切り、USB機器を接続し直してください。
- **FAT16/32フォーマット以外のUSB機器を使用している。**
  FAT16/32フォーマットのUSB機器を使用してください。

USB機器のフォルダーやファイルが表示されない

● 暗号化機能によりUSB機器内のデータが保護されている。

暗号化機能のないUSB機器を使用してください。

● サポートされていないコンテンツやフォルダが入っている。

サポートするコンテンツやフォルダについて、詳しくは次をご覧ください。

・「USB機器の曲を再生する」(71ページ)

・「主な仕様」(188ページ)

USB機器のファイルを連続して再生できない

● 選択したフォルダーに、本製品で再生できないファイルが含まれている。

再生するフォルダーには、本製品で再生できないファイルを入れないでください。

● 選択したフォルダーに、1000曲以上のファイルが含まれている。

フォルダーとファイルを合わせて最大999個のアイテムをブラウズ画面に表示し、再生できます。この制限を超えたフォルダーやファイル名は表示されません。サポートするフォルダーの階層は、ルート階層を含めて10レベルまでです。

Bluetooth®接続のトラブル

Bluetooth®機器と接続できない

● 本製品のBluetooth機能が無効になっている。

Bluetooth機能を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。

・「Bluetooth®の設定をする」(141ページ)

● Bluetooth機器のBluetooth機能が無効になっている。

Bluetooth機器のBluetooth機能をオンにしてください。

● 本製品が別のBluetooth機器と接続されている。

現在のBluetooth接続を切断してから、目的のBluetooth機器と接続してください。詳しくは次をご覧ください。

・「Bluetooth®機器の音声を再生する」(69ページ)

● 本製品とBluetooth機器の距離が離れすぎている。

本製品とBluetooth機器を近づけてください。

● 2.4 GHz周波数帯を使用する機器(電子レンジ、無線LANなど)からの干渉により、無線通信が妨害されている。

本製品やBluetooth機器を、それらの機器から遠ざけてください。また、無線LANルーターが5 GHz周波数帯に対応していれば、5 GHz周波数帯の接続に切り替えてください。

● お使いのBluetooth機器がA2DPプロファイルに対応していない。

A2DPプロファイル対応のBluetooth機器をお使いください。

● Bluetooth機器に登録されている接続情報が何らかの原因で正しく機能していない。

Bluetooth機器の接続情報を削除してから、本製品とBluetooth機器の接続操作を行ってください。詳しくは次をご覧ください。

・「Bluetooth®機器の音声を再生する」(69ページ)

Bluetooth®接続時に音が出ない、音が途切れる

● **Bluetooth機器の音量が小さすぎる。**

Bluetooth機器の音量を上げてください。

● **Bluetooth機器の出力切り替えが本製品に設定されていない。**

Bluetooth機器の出力切り替えを本製品に設定してください。

● **Bluetooth接続が切断された。**

再度Bluetooth接続を行ってください。詳しくは次をご覧ください。

・「Bluetooth®機器の音声を再生する」(69ページ)

● **距離が離れすぎている。**

Bluetooth機器を本製品の近くに移動してください。

● **2.4 GHz周波数帯を使用する機器(電子レンジ、無線LANなど)からの干渉により、無線通信が妨害されている。**

本製品やBluetooth機器を、それらの機器から遠ざけてください。また、無線LANルーターが5 GHz周波数帯に対応していれば、5 GHz周波数帯の接続に切り替えてください。

専用アプリのトラブル

専用アプリで本製品を検出できない

● 本製品非対応のアプリを使用している。

本製品は専用アプリのみ対応しています。MusicCast Controllerは使用できません。

● 本製品とスマートフォンが同じネットワークに接続されていない。

ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。

● スマートフォンが無線(Wi-Fi)で無線LANルーターに接続されていない。

スマートフォンを無線(Wi-Fi)で無線LANルーターに接続してください。

● マルチSSID対応ルーターを使用している。

無線LANルーターのネットワーク分離機能により、本製品へのアクセスができなくなっている可能性があります。本製品とスマートフォンは同じSSIDのネットワークに接続してください。まず、プライマリーSSIDへの接続をおすすめします。

● 本製品の無線(Wi-Fi)機能が無効になっている。

ネットワークに無線(Wi-Fi)で接続している場合は、無線(Wi-Fi)機能を有効に変更してください。

● LANケーブルが接続されていない。

ネットワークに有線接続している場合は、LANケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。

フロントディスプレイのエラーメッセージ

フロントディスプレイにエラーが表示された場合は、次表をご確認ください。

メッセージ	内容	対策
CHECK SP WIRES	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本製品とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。 • 「スピーカーケーブルを接続する」(43ページ)

仕様

主な仕様

本製品の主な仕様です。

入力端子

アナログ音声
- ステレオ×2

デジタル音声
- 光×1(対応fs：32 kHz～96 kHz)
- 同軸×1(対応fs：32 kHz～192 kHz)

HDMI入力
- HDMI×4

その他
- USB×1(USB2.0)
- ネットワーク(有線)×1(100Base-TX/10Base-T)
- セットアップマイク×1

出力端子

アナログ音声
- スピーカー出力×7(フロント左/右、センター、サラウンド左/右、ハイト左/右*)
  * 割り当て変更可能 ［サラウンドバック、バイアンプ(フロント左/右)、ゾーンB］
- プリアウト×2(サブウーファー［モノラル］×2)
- ヘッドホン×1

HDMI出力
- HDMI×1

HDMI

HDMI機能
- 8K、4K Ultra HD (8K/60 Hz、4K/120Hzを含む)、オーディオリターンチャンネル(ARC)、エンハンスドオーディオリターンチャンネル(eARC)、HDMIコントロール(CEC)、オートリップシンク、Deep Color、x.v.Color、HDオーディオ再生、HDR対応、Dolby Vision、ハイブリッドログガンマ

映像フォーマット(リピーターモード)
- VGA
- 480i/60 Hz
- 576i/50 Hz
- 480p/60 Hz
- 576p/50 Hz
- 720p/60 Hz、50 Hz
- 1080i/60 Hz、50 Hz
- 1080p/120 Hz、100 Hz、60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz
- 4K/120 Hz、100 Hz、60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz
- 8K/60 Hz ($8K60_B$)*、50 Hz ($8K50_B$)*、30 Hz、25 Hz、24 Hz
  * DSC(Display Stream Compression)のみ対応

音声フォーマット
- Dolby Atmos
- Dolby TrueHD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS:X
- DTS-HD Master Audio
- DTS-HD High Resolution
- DTS Express
- DTS
- PCM 2〜8チャンネル(Max 192 kHz/24-bit)
- AAC

著作権保護：HDCP 1.4/2.3準拠

リンク機能：CEC対応

チューナー

アナログチューナー
- FM×1(チューナー)

USB

USBマスストレージクラス

最大供給電流：1.0 A

Bluetooth

受信動作
- Bluetooth機器(スマートフォン、タブレットなど)からの受信機能
- サポートプロファイル
  - A2DP、AVRCP
- 対応コーデック
  - SBC、AAC
- 対応コンテンツ保護
  - SCMS-T

Bluetoothバージョン
- Ver.5.3

ワイヤレス出力
- Bluetooth Class 2

最大通信距離
- 10 m(障害物がないこと)

ネットワーク

AirPlay 2対応

インターネットラジオ

Podcasts

Spotify Connect

TIDAL Connect

Google Cast for audio

Qobuz Connect

無線ネットワーク

- 無線LAN規格：IEEE802.11 a/b/g/n/ac/ax
- 無線周波数帯域：2.4 GHz/5 GHz
- 対応セキュリティー
  - WPA2
  - WPA3

対応デコードフォーマット

デコードフォーマット
- Dolby Atmos
- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS:X
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution、DTS Express
- DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1
- DTS、DTS 96/24
- AAC

ポストデコードフォーマット
- Dolby Surround
- Neural:X

オーディオ部

定格出力(2ch同時駆動) (20 Hz～20 kHz、0.09%THD、6 Ω)	
・フロント左/右	75 W/ch
1ch駆動出力(1 kHz、0.9%THD、6 Ω)	
・フロント左/右、センター、サラウンド左/右、ハイト左/右	110 W
実用最大出力(非同時駆動) (1 kHz、10%THD、6 Ω)	
・フロント左/右、センター、サラウンド左/右、ハイト左/右	145 W
ダンピングファクター	
• フロント左/右(1 kHz、8 Ω)	100以上
入力感度/入力インピーダンス	
• RCA 1他(1 kHz、定格出力)	200 mV/47 kΩ
最大許容入力	
• RCA 1他(1 kHz、0.5%THD)	2.3 V
定格出力電圧/出力インピーダンス	
• プリアウト	
・サブウーファー(50 Hz)	1.0 V/1.8 KΩ

最大出力レベル	
• プリアウト	
・サブウーファー	4.5 V
ヘッドホンインピーダンス	16 Ω以上
周波数特性	
• RCA 1他 (ピュアダイレクト)(10 Hz～100 kHz)	+0/-3 dB
全高調波歪率	
• RCA 1他→SP OUT(ピュアダイレクト)(20 Hz～20 kHz、40 W、6 Ω)	0.06% 以下
S/N比(IHF-Aネットワーク)	
• RCA 1他→SP OUT(ピュアダイレクト)(入力1 kΩショート)	110 dB以上
残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)	
• SP OUT	150 µV以下
チャンネルセパレーション	
• RCA 1他(入力1 kΩショート、1 kHz/10 kHz)	70 dB/50 dB以上
音量可変範囲	
• メインゾーン	ミュート、-80 dB～+16.5 dB(0.5 dB ステップ)
• ゾーンB	ミュート、-80 dB～+16.5 dB(0.5 dB ステップ)
トーンコントロール特性	
• メインゾーン	
・BASS(可変幅)	±6 dB/0.5 dBステップ、50 Hz
・BASS(ターンオーバー周波数)	350 Hz
・TREBLE(可変幅)	±6 dB/0.5 dBステップ、20 kHz
・TREBLE(ターンオーバー周波数)	3.5 kHz
・対象チャンネル	フロント左/右
低音クロスオーバー周波数(カットオフ周波数：40 Hz～200 Hz(5 Hzステップ))	
• H.P.F.(フロント、センター、サラウンド、ハイト)	12 dB/oct.
• L.P.F.(サブウーファー)	24 dB/oct.

FMチューナー部

受信周波数範囲	76.0 MHz～94.9 MHz

50 dB SN感度(IHF、1 kHz、100% MOD.)	
• モノラル	9 dBμV
S/N比(IHF)	
• モノラル/ステレオ	65 dB/64 dB
歪率	
• モノラル/ステレオ	0.5%/0.6%
アンテナ入力	75 Ω、アンバランス

総合

電源電圧	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	260 W
待機時消費電力*	
• HDMIコントロールオフ、スタンバイスルーオフ、ネットワークスタンバイオフ、Bluetoothスタンバイオフ	0.3 W
• HDMIコントロールオン、スタンバイスルーオン、ネットワークスタンバイオフ、Bluetoothスタンバイオフ	
・入力：RCA 1(HDMI無信号時)	1.6 W
• HDMIコントロールオフ、スタンバイスルーオフ、ネットワークスタンバイオン、Bluetoothスタンバイオフ	
・有線	1.2 W
・Wi-Fi	1.2 W
• HDMIコントロールオフ、スタンバイスルーオフ、ネットワークスタンバイオン、Bluetoothスタンバイオン	
・有線	1.2 W
• HDMIコントロールオン、スタンバイスルーオン、ネットワークスタンバイオン、Bluetoothスタンバイオン	
・Wi-Fi	1.6 W

* 本製品は、スタンバイ中にファームウェアをネットワーク経由でダウンロードすることがあります。この場合、待機時消費電力は表記の値よりも増加します。

寸法(幅×高さ×奥行き)	
* 脚部、突起物を含む	
	434×157×319 mm

質量	8.0 kg

* この説明は、発行時点の最新仕様に基づいて記載しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてご覧ください。

対応している機器とフォーマット

対応しているBluetooth機器

本製品が対応しているBluetooth機器は、次をご確認ください。

- A2DPプロファイルに対応したBluetooth機器に対応しています。
- すべてのBluetooth機器に対して、Bluetooth接続および本ガイド記載の機能・性能を保証するものではありません。

対応しているUSB機器

本製品が対応しているUSB機器は、次をご確認ください。

- FAT16またはFAT32でフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。
  その他のUSB機器は接続しないでください。
- 暗号化機能があるUSB機器は使用できません。
- すべてのUSB機器に対する接続を保証するものではありません。

対応しているファイルフォーマット

本製品が対応しているファイルフォーマットは、次をご確認ください。

ファイル	サンプリング周波数 (kHz)	量子化ビット数 (bit)	ビットレート (kbps)	チャンネル数
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192	16/24	-	2
MP3	32/44.1/48	-	8 ～ 320	2
WMA	32/44.1/48	-	8 ～ 320	2
MPEG-4 AAC	32/44.1/48	-	8 ～ 320	2
FLAC*	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192	16/24	-	2
ALAC*	32/44.1/48/88.2/96	16/24	-	2
AIFF*	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192	16/24/32	-	2

* ネットストリームのみ再生可能です。

・ DRM(デジタル著作管理)により保護されたファイルは再生できません。

付録

ネットワークへ無線接続する

ネットワークへの無線接続方法を選ぶ

お使いのネットワーク環境に合わせて、次から無線接続方法を選んでください。

- 「専用アプリでネットワーク接続する」(59ページ)
- 「アクセスポイントの一覧から無線接続する」(200ページ)
- 「iPhoneを使って無線接続する」(199ページ)
- 「手動で無線接続する」(201ページ)

お知らせ

- 本製品の専用アプリでネットワーク設定も行えます。専用アプリを利用する場合は、この方法をおすすめします。
- ネットワークへの無線接続を停止して有線接続に切り替えるには、NETWORK端子にLANケーブルを接続してください。

iPhoneを使って無線接続する

お手持ちのiPhoneのネットワーク設定を本製品に適用して、無線接続を設定します。

設定を始める前に、お使いのiPhoneが無線LANルーターに接続されていることを確認してください。

お知らせ

iOS11.4以降を搭載したiPhoneが必要です。

設定メニュー

「ネットワーク設定」＞「無線接続」

1 **「WAC(iOS)」を選ぶ。**

2 **テレビ画面の表示にしたがって、無線接続する。**

共有操作が完了すると、本製品は自動的に選択した無線LANルーターに接続します。

これで無線接続は完了です。

お知らせ

暗号化方式としてWEPを使用している無線LANルーターには接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。

関連リンク

「ネットワークへの無線接続方法を選ぶ」(198ページ)

アクセスポイントの一覧から無線接続する

本製品が検索した無線LANルーターの一覧から接続先を選択して、無線接続を設定します。

セキュリティーキーを手動で設定する必要があります。

設定メニュー

「ネットワーク設定」＞「無線接続」

1. **「ネットワーク検索」を選ぶ。**
2. **テレビ画面の表示にしたがって、無線接続する。**
   接続が完了すると、「完了しました」と表示されます。
   「接続できませんでした」と表示された場合は、手順1からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

これで無線接続は完了です。

関連リンク

「ネットワークへの無線接続方法を選ぶ」(198ページ)

手動で無線接続する

必要な情報を入力して、無線接続を設定します。SSID(ネットワーク名)や暗号化方式、セキュリティーキーを手動で設定する必要があります。

設定メニュー

「ネットワーク設定」＞「無線接続」

1. **「マニュアル設定」を選ぶ。**
2. **テレビ画面の表示にしたがって、無線接続する。**
   接続が完了すると、「完了しました」と表示されます。
   「接続できませんでした」と表示された場合は、やり直すか、別の接続方法をお試しください。

これで無線接続は完了です。

関連リンク

「ネットワークへの無線接続方法を選ぶ」(198ページ)

ハイトスピーカーの配置について

ハイトスピーカーの配置

ハイトスピーカーの配置方法は、次の3種類あります。視聴環境に合わせていずれかを選んでください。どの配置方法でもDolby AtmosやDTS:Xをお楽しみいただけます。

- フロントハイト
- トップ
- ドルビーイネーブルドスピーカー

お知らせ

ハイトスピーカーを使用する場合は、初期設定でスピーカー設定(ルームコレクション)を実行する前に、設定メニューの「スピーカー設定」＞「構成」＞「配置」で該当するハイトスピーカーの配置を選択してください。

関連リンク

「スピーカーの設定をする」(120ページ)

ハイトスピーカーをフロントハイトに設置する

ハイトスピーカーを部屋の前方の壁(フロントハイト)に設置します。上下左右の空間のつながり感と広がり感を効果的に再現します。



ハイトスピーカーをトップに設置する

ハイトスピーカーを視聴位置上部の天井(トップ)に設置します。上部からのリアルな効果音や前後のつながりを効果的に再現します。

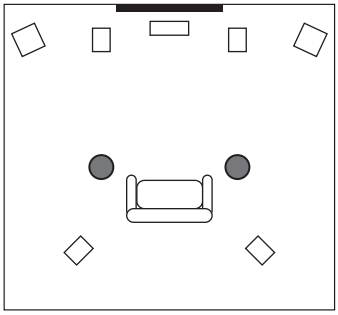
注意

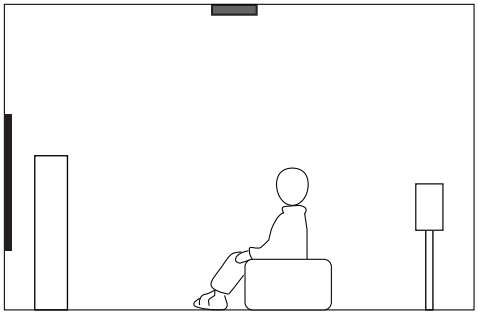
- 必ず天井への取り付けに対応したスピーカーを使用し、落下防止措置を講じてください。スピーカーが落下し、故障やけがの原因となります。また、取り付けはご購入店または専門業者に依頼してください。



お知らせ

ハイトスピーカーを天井に取り付ける場合は、視聴位置の上部、または視聴位置とフロントスピーカーの間の天井に設置します。





ハイトスピーカーにドルビーイネーブルドスピーカーを使用する

ハイトスピーカーとしてドルビーイネーブルドスピーカー(Dolby Enabled Speaker)を使用します。天井の反射を利用し、床置きのスピーカーのみで上方スピーカーを再現できます。

詳しくは、ドルビーイネーブルドスピーカーの取扱説明書をご覧ください。



お知らせ

- ドルビーイネーブルドスピーカーはフロントスピーカーの上部またはすぐそばに配置してください。
- 1本のスピーカーにドルビーイネーブルドスピーカーが組み込まれている場合もあります。

サブウーファーの出力条件について

サブウーファーから音声が出力されるための設定やサウンドモードなどの条件について説明します。

サブウーファーから音声を出力するためには、あらかじめ設定メニューの「構成」＞「サブウーファー」で「使用する」を選択しておく必要があります(初期設定は「使用する」)。さらに次表に示す条件があります。

エクストラベース	サウンドモード	入力	サブウーファーの音声出力
オン	(すべて)	(すべて)	あり
オフ	PURE DIRECT以外	(すべて)	あり
	PURE DIRECT	アナログ音声信号以外	あり
		アナログ音声信号	なし

ご注意

- 再生コンテンツにLFE用のチャンネル音声がない場合は、設定メニューの「スピーカー設定」＞「構成」で、スピーカー が「クロスオーバー」に設定されている必要があります(初期設定は「クロスオーバー」)。すべてのスピーカーが「フルレンジ」に設定されていると、サブウーファーから音声が出力されません。
- 再生コンテンツにLFE用のチャンネル音声を含んでいる場合は、サウンドモードをPURE DIRECT以外に設定すると、サブウーファーから音声を出力できます。

関連リンク

「スピーカーの設定をする」(120ページ)

専用アプリについて



専用アプリ「Audio Connect」により、本製品のネットワーク接続をすることもできます。「Audio Connect」では、ネットワークコンテンツの操作もできます。Google Cast機能を使用するためには、本アプリを用いての設定が必須です。

App StoreまたはGoogle Playで「Audio Connect」を検索し、インストールしてください。

下のQRコードからアプリをインストールすることもできます。

サポート窓口

問題が解決しない場合は、次の窓口にお問い合わせください。

日本国内のお客様

お買い上げ店、または同梱の「セーフティーガイド」掲載の「お問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

日本以外の地域のお客様

お近くのヤマハ正規ディーラーまたはサービスセンターまでお問い合わせください。

https://manual.yamaha.com/audio/address_list/

商標

本ガイドで使用している商標です。

COMPATIBLE WITH
Dolby Vision Dolby Atmos

Dolby、ドルビー、Dolby Vision、Dolby Atmos、Dolby Audio及びダブル D 記号はDolby Laboratories Licensing Corporationの商標です。

ドルビーラボラトリーズのライセンスに基づき製造しています。

非公開機密著作物。 著作権 2012–2025年 ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

dts X

本製品は DTS, Inc. のライセンスに基づき製造しています。

DTSの特許に関してはhttps://xperi.com/dts-patents/をご覧ください。

DTSロゴ、DTS:X、DTS:X ロゴ、Virtual:Xおよび DTS Virtual:X ロゴは米国およびその他の国々における DTS, INC. の登録商標又は商標です。

© DTS, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Works with Apple AirPlay

このAVレシーバーでAirPlayを使用するには、最新バージョンのiOS、iPadOS、またはmacOSを推奨します。

Works with Apple AirPlayバッジを表記したアクセサリーは、バッジが表す技術に適合するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定されたアクセサリーであることを示します。

Apple、AirPlay、Apple TV、Apple Watch、iPad、iPad Air、iPad Pro、iPhone、Lightning、iTunesは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。

日本国内において、iPhone商標はアイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

Bluetooth®ワードマークおよびロゴは登録商標であり、 Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED™ロゴおよびWi-Fi Protected Setupロゴは Wi-Fi Alliance®の登録商標です。

Wi-Fi、Wi-Fi CERTIFIED、Wi-Fi Protected SetupおよびWPA2は Wi-Fi Alliance® の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

App Store

App Storeは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.のサービスマークです。

Google Cast is a feature that lets you stream your favorite music from your phone, tablet or laptop right to your speakers. Easily control your speakers with apps you already know and love from your Android™ phone or tablet, iPhone®, iPad®, Mac® or Windows® laptop, or Chromebook.

Android、Google Play、Google CastはGoogle LLCの商標です。

スマホ、タブレット、パソコンをリモコンにして、Spotifyで音楽を楽しめます。 詳しくは spotify.com/connect をご覧ください

Spotify のソフトウェアは、次に記載のサードパーティソフトウエアを利用しています。

www.spotify.com/connect/third-party-licenses

Google Noto Fonts

本製品は次のフォントを使用しています。

Noto Sans (https://www.google.com/get/noto/#sans-lgc)

Ⓒ June 2015, Google Noto Sans CJK (https://www.google.com/get/noto/help/cjk/)

Ⓒ June 2015, Google

これらのフォントソフトウェアは、SIL Open Font License 1.1のもとライセンスされています。ライセンスに関しては、http://scripts.sil.org/OFLのFAQをご覧ください。

サードパーティー製ソフトウェアプログラムについて

本製品は、次のサードパーティー製ソフトウェアプログラムを使用しています。

- Cortex M CMSIS
- STM32H5xx CMSIS
- STM32H5xx HAL
- FatFS
- STM32_USB_Device_Library
- STM32_USB_Host_Library
- FreeRTOS (Amazon FreeRTOS POSIX)
- FreeRTOS
- ARM CCM
- ARM ECC
- USBware
- Newlib
  - Red Hat Incorporated
  - University of California, Berkeley
  - David M. Gay (AT&T, Lucent Technologies)
  - Advanced Micro Devices
  - Sun Microsystems
  - Hewlett-Packard Company
  - Hans-Peter Nilsson
  - Christopher G. Demetriou
  - SuperH, Inc.
  - Royal Institute of Technology
  - Alexey Zelkin
  - Andrey A. Chernov
  - FreeBSD Project
  - S. L. Moshier
  - Citrus Project
  - Todd C. Miller
  - DJ Delorie
  - Mike Barcroft
  - Konstantin Chuguev
  - Artem Bityuckiy
  - Alex Tatmanjants

    - M. Warner Losh
    - Daniel Eischen
    - Ed Schouten
- DMDecode
- picojpeg
- DejaVu Fonts
    - Bitstream Vera Fonts
    - Arev Fonts

各ソフトウェアプログラムの著作権、使用許諾条件につきましては、次をご覧ください。

お知らせ

- 各プログラムの権利者の要請により、原文(英語)を掲載しています。
- 本書に記載されていないその他のサードパーティーソフトウェアライセンス情報については、本製品に対応するアプリ上でご確認いただけます。

■ Cortex M CMSIS

Copyright © 2009–2023 ARM Limited. All rights reserved.

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.
You may obtain a copy of the License at
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

■ STM32H5xx CMSIS

ARM Limited – STMicroelectronics

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

■ STM32H5xx HAL

Copyright © 2023 STMicroelectronics.
All rights reserved.

This software component is licensed by ST under BSD 3-Clause license, the "License"; You may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at:

https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause

■ FatFS

Copyright © 2017, ChaN, all right reserved.

FatFs module is an open source software. Redistribution and use of FatFs in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following condition is met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this condition and the following disclaimer.

This software is provided by the copyright holder and contributors "AS IS" and any warranties related to this software are DISCLAIMED.

The copyright owner or contributors be NOT LIABLE for any damages caused by use of this software.

■ STM32_USB_Device_Library

Copyright © 2015 STMicroelectronics.
All rights reserved.

This software component is licensed by ST under Ultimate Liberty license SLA0044, the "License"; You may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at:

http://www.st.com/SLA0044

■ STM32_USB_Host_Library

Copyright © 2015 STMicroelectronics.

All rights reserved.

This software component is licensed by ST under Ultimate Liberty license SLA0044, the "License"; You may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at:

http://www.st.com/SLA0044

■ FreeRTOS

Amazon FreeRTOS POSIX V1.1.0

Copyright © 2018 Amazon.com, Inc. or its affiliates.

All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

■ FreeRTOS

Copyright © 2020 Amazon.com, Inc. or its affiliates.

All Rights Reserved

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

■ ARM CCM

Copyright © 2006-2015, ARM Limited, All Rights Reserved

This component is licensed under the GNU General Public License version 2 (GPLv2). You may use, modify and redistribute the software under the terms of GPLv2, provided that:

- Source code of the modified program is made available under GPLv2;
- Copyright and license notices are preserved.

https://tls.mbed.org

■ ARM ECC

Copyright © 2013, Kenneth MacKay

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

https://github.com/kmackay/micro-ecc/blob/old/ecc.h

■ USBware

USBware from Jungo Ltd.

“This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.”

Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE * POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ Newlib

The newlib subdirectory is a collection of software from several sources.

Each file may have its own copyright/license that is embedded in the source file.

Unless otherwise noted in the body of the source file(s), the following copyright notices will apply to the contents of the newlib subdirectory:

1. Red Hat Incorporated

Copyright © 1994-2009 Red Hat, Inc. All rights reserved.

This copyrighted material is made available to anyone wishing to use, modify, copy, or redistribute it subject to the terms and conditions of the BSD License. This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY expressed or implied, including the implied warranties of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. A copy of this license is available at

http://www.opensource.org/licenses. Any Red Hat trademarks that are incorporated in the source code or documentation are not subject to the BSD License and may only be used or replicated with the express permission of Red Hat, Inc.

2. University of California, Berkeley

Copyright © 1981-2000 The Regents of the University of California. All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

3. David M. Gay (AT&T 1991, Lucent 1998)

The author of this software is David M. Gay.

Copyright © 1991 by AT&T.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose without fee is hereby granted, provided that this entire notice is included in all copies of any software which is or includes a copy or modification of this software and in all copies of the supporting documentation for such software.

THIS SOFTWARE IS BEING PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY. IN PARTICULAR, NEITHER THE AUTHOR NOR AT&T MAKES ANY REPRESENTATION OR WARRANTY OF ANY KIND CONCERNING THE MERCHANTABILITY OF THIS SOFTWARE OR ITS FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE.

The author of this software is David M. Gay.

Copyright © 1998-2001 by Lucent Technologies All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that the copyright notice and this permission notice and warranty disclaimer appear in supporting documentation, and that the name of Lucent or any of its entities not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

LUCENT DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL LUCENT OR ANY OF ITS ENTITIES BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

4. Advanced Micro Devices

Copyright 1989, 1990 Advanced Micro Devices, Inc.

This software is the property of Advanced Micro Devices, Inc (AMD) which specifically grants the user the right to modify, use and distribute this software provided this notice is not removed or altered. All other rights are reserved by AMD.

AMD MAKES NO WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, WITH REGARD TO THIS SOFTWARE. IN NO EVENT SHALL AMD BE LIABLE FOR INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES IN CONNECTION WITH OR ARISING FROM THE FURNISHING, PERFORMANCE, OR USE OF THIS SOFTWARE.

So that all may benefit from your experience, please report any problems or suggestions about this software to the 29K Technical Support Center at 800-29-29-AMD (800-292-9263) in the USA, or 0800-89-1131 in the UK, or 0031-11-1129 in Japan, toll free. The direct dial number is 512-462-4118.

Advanced Micro Devices, Inc.

29K Support Products

Mail Stop 573

5900 E. Ben White Blvd.

Austin, TX 78741

800-292-9263

5. Sun Microsystems

Copyright © 1993 by Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Developed at SunPro, a Sun Microsystems, Inc. business.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software is freely granted, provided that this notice is preserved.

6. Hewlett-Packard

© Copyright 1986 HEWLETT-PACKARD COMPANY

To anyone who acknowledges that this file is provided "AS IS" without any express or implied warranty: permission to use, copy, modify, and distribute this file for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice and this notice appears in all copies, and that the name of Hewlett-Packard Company not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. Hewlett-Packard Company makes no representations about the suitability of this software for any purpose.

7. Hans Peter Nilsson

Copyright © 2001 Hans Peter Nilsson.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software is freely granted, provided that the above copyright notice, this notice and the following disclaimer are preserved with no changes.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

8. Christopher G. Demetriou

Copyright © 2001 Christopher G. Demetriou

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

9. SuperH, Inc.

Copyright 2002 SuperH, Inc. All rights reserved

This software is the property of SuperH, Inc (SuperH) which specifically grants the user the right to modify, use and distribute this software provided this notice is not removed or altered. All other rights are reserved by SuperH.

SUPERH MAKES NO WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, WITH REGARD TO THIS SOFTWARE. IN NO EVENT SHALL SUPERH BE LIABLE FOR INDIRECT, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES IN CONNECTION WITH OR ARISING FROM THE FURNISHING, PERFORMANCE, OR USE OF THIS SOFTWARE.

So that all may benefit from your experience, please report any problems or suggestions about this software to the SuperH Support Center via e-mail at softwaresupport@superh.com .

SuperH, Inc. 405 River Oaks Parkway San Jose CA 95134 USA

10. Royal Institute of Technology

Copyright © 1999 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden).

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of KTH nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY KTH AND ITS CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL KTH OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

11. Alexey Zelkin

Copyright © 2000, 2001 Alexey Zelkin <phantom@FreeBSD.org> All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

12. Andrey A. Chernov

Copyright © 1997 by Andrey A. Chernov, Moscow, Russia.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

13. FreeBSD

Copyright © 1997-2002 FreeBSD Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

14. S. L. Moshier

Author: S. L. Moshier.

Copyright © 1984,2000 S.L. Moshier

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose without fee is hereby granted, provided that this entire notice is included in all copies of any software which is or includes a copy or modification of this software and in all copies of the supporting documentation for such software.

THIS SOFTWARE IS BEING PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY. IN PARTICULAR, THE AUTHOR MAKES NO REPRESENTATION OR WARRANTY OF ANY KIND CONCERNING THE MERCHANTABILITY OF THIS SOFTWARE OR ITS FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE.

15. Citrus Project

Copyright ©1999 Citrus Project, All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

16. Todd C. Miller

Copyright © 1998 Todd C. Miller <Todd.Miller@courtesan.com> All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

17. DJ Delorie (i386)

Copyright © 1991 DJ Delorie All rights reserved.

Redistribution, modification, and use in source and binary forms is permitted provided that the above copyright notice and following paragraph are duplicated in all such forms.

This file is distributed WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

18. Mike Barcroft

Copyright © 2001 Mike Barcroft <mike@FreeBSD.org>

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,

STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

19. Konstantin Chuguev (--enable-newlib-iconv)

Copyright © 1999, 2000 Konstantin Chuguev. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

iconv (Charset Conversion Library) v2.0

20. Artem Bityuckiy (--enable-newlib-iconv)

Copyright © 2003, Artem B. Bityuckiy, SoftMine Corporation. Rights transferred to Franklin Electronic Publishers.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE

DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

21. Alex Tatmanjants (targets using libc/posix)

Copyright © 1995 Alex Tatmanjants <alex@elvisti.kiev.ua> at Electronni Visti IA, Kiev, Ukraine

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

22. M. Warner Losh(targets using libc/posix)

Copyright © 1998, M. Warner Losh imp@freebsd.org

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

23. Andrey A. Chernov (targets using libc/posix)

Copyright © 1996 by Andrey A. Chernov, Moscow, Russia.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

24. Daniel Eischen (targets using libc/posix)

Copyright © 2001 Daniel Eischen <deischen@FreeBSD.org>.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

25. Ed Schouten - Free BSD

Copyright © 2008 Ed Schouten <ed@FreeBSD.org> All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ DMDecode

Simon Tatham

This software is copyright 2008 Simon Tatham.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

■ picojpeg

Rich Geldreich

Picojpeg is a public domain JPEG decompressor (Used in DAB slideshow) picojpeg - Public domain, Rich Geldreich <richgel99@gmail.com>

THE FOLLOWING FILE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIESOF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.

■ DejaVu Fonts

DejaVu Fonts are used in the colour variant.

Fonts are © Bitstream (see below). DejaVu changes are in public domain. Explanation of copyright is on Gnome page on Bitstream Vera fonts (http://gnome.org/fonts/). Glyphs imported from Arev (https://dejavu-fonts.github.io/Bitstream_Vera_Derivatives.html) fonts are © Tavmjung Bah (see below)

Bitstream Vera Fonts Copyright

Copyright © 2003 by Bitstream, Inc. All Rights Reserved. Bitstream Vera is a trademark of Bitstream, Inc.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the fonts accompanying this license ("Fonts") and associated documentation files (the "Font Software"), to reproduce and distribute the Font Software, including without limitation the rights to use, copy, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Font Software, and to permit persons to whom the Font Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright and trademark notices and this permission notice shall be included in all copies of one or more of the Font Software typefaces.

The Font Software may be modified, altered, or added to, and in particular the designs of glyphs or characters in the Fonts may be modified and additional glyphs or characters may be added to the Fonts, only if the fonts are renamed to names not containing either the words "Bitstream" or the word "Vera".

This License becomes null and void to the extent applicable to Fonts or Font Software that has been modified and is distributed under the "Bitstream Vera" names.

The Font Software may be sold as part of a larger software package but no copy of one or more of the Font Software typefaces may be sold by itself.

THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL BITSTREAM OR THE GNOME FOUNDATION BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the names of Gnome, the Gnome Foundation, and Bitstream Inc., shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Font Software without prior written authorization from the Gnome Foundation or Bitstream Inc., respectively. For further information, contact: fonts at gnome dot org.

Arev Fonts Copyright

Copyright © 2006 by Tavmjong Bah. All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the fonts accompanying this license ("Fonts") and associated documentation files (the "Font Software"), to reproduce and distribute the modifications to the Bitstream Vera Font Software, including without limitation the rights to use, copy, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Font Software, and to permit persons to whom the Font Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright and trademark notices and this permission notice shall be included in all copies of one or more of the Font Software typefaces.

The Font Software may be modified, altered, or added to, and in particular the designs of glyphs or characters in the Fonts may be modified and additional glyphs or characters may be added to the Fonts, only if the fonts are renamed to names not containing either the words "Tavmjong Bah" or the word "Arev".

This License becomes null and void to the extent applicable to Fonts or Font Software that has been modified and is distributed under the "Tavmjong Bah Arev" names.

The Font Software may be sold as part of a larger software package but no copy of one or more of the Font Software typefaces may be sold by itself.

THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL TAVMJONG BAH BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of Tavmjong Bah shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Font Software without prior written authorization from Tavmjong Bah. For further information, contact: tavmjong@free.fr.

Yamaha Global Site
https://www.yamaha.com/

Yamaha Downloads
https://download.yamaha.com/

© 2026 Yamaha Corporation

2026年9月 発行 NV-D1

AV25-0014